



沖縄県

# 総合精神保健福祉センター所報

令和4（2022）年度実績

沖縄県立総合精神保健福祉センター

## はじめに

皆さま方のご協力によりまして、令和4年度の事業を無事終了し所報をお届けできずことを心より感謝申し上げます。

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症対策が続きました。しかし、県内精神科病院が自らクラスター対策をとることが可能になり、下半期からDPAT 隊の派遣はありませんでした。当センターは、沖縄県公認心理師協会とともに支援者支援活動を行い、WEB による支援会議を継続しました。

ひきこもり対策については、ひきこもり専門支援センターを開所してから6年経過し、令和4年度からは市町村支援のため相談員も一人増えて4名体制になりました。相談件数は多く、ひきこもりショートケアに繋がる人も増えています。

依存症関係では、依存症ショートケア(アルコールと薬物)は再開できませんでしたが、ギャンブル依存に特化したプログラムは継続しています。アディクションフォーラムは3年ぶりに会場で対面での開催ができました。

それ以外の事業では、自殺対策、自死遺族支援、精神科救急医療情報センター、地域移行・地域定着支援などの事業を継続展開しています。もちろん常時電話相談や来所相談に対応しております。

退院請求、処遇改善請求、自立支援医療・精神障害者保健福祉手帳認定等の法定業務も行っています。精神保健福祉法改正でますます仕事量が増えそうです。

以上の他にも様々な事業・業務を実施しましたので本所報の各ページをご覧ください。

令和5年度も関係者の皆様のご協力をいただき、県民の皆さまの精神的な健康が保てますよう職員一同頑張ります。どうぞよろしくお願ひ致します。

令和5年6月

所長 宮川 治

# 目 次

## I 総合精神保健福祉センター概要

1	設立の趣旨・経緯	1
2	沿 革	1
3	歴代所長	2
4	施設概要	2
5	組織及び事務分掌	3
6	年度別決算状況	4
7	総合精神保健福祉センター平面図	5

## II 事業実績

### ( I ) 法定業務

1	自立支援医療(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務	6
2	精神医療審査会事務	7

### ( II ) 精神保健福祉相談事業

1	精神保健福祉相談業務概要	8
2	来所相談	8
3	こころの電話相談(心の健康づくり相談事業)	12
4	特定相談	15
5	診 療	16
6	ギャンブル障害(依存症)回復プログラム	16
7	新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業	17

### ( III ) ショートケア及び家族支援事業

1	薬物・アルコール依存症ショートケア	18
2	ひきこもりショートケア	19
3	家族支援	21

### ( IV ) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

1	研修会・講演会	23
2	普及啓発	26
3	技術援助・連絡会議	27
4	組織育成支援	31

### ( V ) 精神科救急医療体制

1	精神科救急医療情報センター相談窓口の受信状況	32
2	精神科救急医療連絡会	34

### ( VI ) ひきこもり専門支援センター事業

1	ひきこもり専門支援センター概要	35
2	業務内容	35

### ( VII ) 職員研修

1	職員研修	41
---	------	----

#### 資 料

1	沖縄県精神科救急医療体制概要	43
2	沖縄県精神科救急医療体制図	44
3	沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談フローチャート	45
4	救急隊による精神科救急患者搬送のフローチャート	46

# I 総合精神保健福祉センター概要

1 設立の趣旨・経緯

2 沿革

3 歴代所長

4 施設概要

5 組織及び事務分掌

6 年度別決算状況

7 総合精神保健福祉センター平面図

## 1 設立の趣旨・経緯

昭和40年6月に精神衛生法の一部改正によって、都道府県は、精神衛生の向上を図るため精神衛生センターを設置することができることとされた。

これにより精神衛生センターは、「精神衛生に関する知識の普及を図り、精神衛生に関する調査研究を行い、並びに精神衛生に関する相談及び指導のうち複雑又は困難なものを行う施設とする。」と規定され、精神衛生の総合技術センターとしての機能を担う体制が確立した。

しかし、本県においては当時の琉球政府による精神衛生に関する相談専門機関の設置はなく、財団法人沖縄精神衛生協会が設置した「沖縄精神衛生相談所(メンタル・クリニック併設)」が活躍していた。

昭和47年5月15日の本土復帰に伴い本土法の全面的な適用となり、県は精神衛生行政の積極的な推進体制を整え、精神衛生協会が設置した相談所を昭和49年3月に沖縄県立精神衛生センターとして位置づけ出発し、昭和51年9月には、デイケア事業を開設した。昭和62年9月に精神衛生法から精神保健法に改正され、昭和63年7月施行に伴い名称を沖縄県立精神保健センターに、平成元年4月には沖縄県立総合精神保健センターと名称を改め、平成2年5月にはデイケア施設基準の認可を受けた。

更に平成7年5月に精神保健法が「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、同年7月に施行されたことに伴い、同年10月16日に沖縄県立総合精神保健福祉センターと名称を改め、現在に至る。

## 2 沿革

昭和43年2月	琉球政府及び南方同胞援護会の協力を得て財団法人沖縄精神衛生協会は、「沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック併設」の新築工事に着手
昭和43年6月	沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック新築工事完成(367 m <sup>2</sup> )
昭和44年1月	財団法人沖縄精神衛生協会「沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック」開設
昭和49年3月	財団法人沖縄精神衛生協会は「沖縄精神衛生相談所、メンタル・クリニック」を無償で県へ移管 (1) 沖縄県立精神衛生センターの設置及び管理に関する条例公布 (2) 財団法人沖縄精神衛生協会が設置する沖縄精神衛生相談所の県移管に伴う職員の給与等に関する特別措置条例公布
昭和49年4月	沖縄県立精神衛生センターとして発足(診療所開設許可) (1) 職員：所長(県立精和病院長兼務)、次長、臨床心理担当者、看護師、精神科ソーシャルワーカー他 計7名 (2) 建物：367 m <sup>2</sup> 2階建
昭和50年12月	建物増築工事着工(デイケア部門、教育研修室、所長室、倉庫、198 m <sup>2</sup> 及び空調機器)
昭和51年5月	増築工事完成、延床面積565 m <sup>2</sup>
昭和51年9月	デイケア事業を開設
昭和61年6月	こころの電話相談開設
昭和63年10月	南風原町字宮平212-3(県立精和病院跡地)に新築着工、平成元年3月竣工
平成元年4月	沖縄県立総合精神保健センターと名称を改める
平成2年5月	健康保険法の規定による精神科デイケア施設が承認認可される
平成7年10月	沖縄県立総合精神保健福祉センターに名称を改める
平成10年6月	精神科救急医療システム支援事業開始
平成14年4月	精神障害者通院医療費公費負担及び精神障害者保健福祉手帳判定事務、精神医療審査会事務の実施
平成17年8月	「うつ病デイケア」開始、プログラムの民間医療機関等への普及開始
平成18年3月	「一般デイケア(統合失調症中心)」終了
平成20年4月	「うつ病デイケア」同プログラム及び認知行動療法(CBT)の普及を強化
平成25年4月	「災害時におけるこころのケア体制整備事業」開始
平成26年4月	「災害派遣精神医療チーム(DPAT)体制整備事業」に名称変更、沖縄県地域防災計画にDPATが位置づけられ、人材育成研修を強化する

平成 27 年 11 月	県内精神科病院等 11 機関が DPAT 登録。12 月に第 1 回 DPAT 研修会を開催
平成 28 年 4 月	平成 28 年熊本地震では 75 日間に渡り、沖縄県 DPAT を 12 隊、延 62 名派遣
平成 28 年 4 月	「沖縄県ひきこもり専門支援センター」を当センター内に開設
平成 28 年 6 月	うつ病デイケア終了
平成 28 年 10 月	「薬物・アルコール依存症ショートケア事業」を開始
平成 29 年 2 月	ひきこもりデイケア事業開始
令和元年 8 月	ギャンブル障害回復プログラムを開始
令和 2 年 4 月	依存症相談拠点機関に指定 施設基準：精神科ショートケア「小規模なもの」を届出し、精神科 ショートケア「大規模なもの」及び精神科デイケア「大規模なもの」 を辞退
令和 2 年 6 月	新型コロナウイルス感染症に関するこころの電話相談開設 (令和 5 年 3 月末終了)

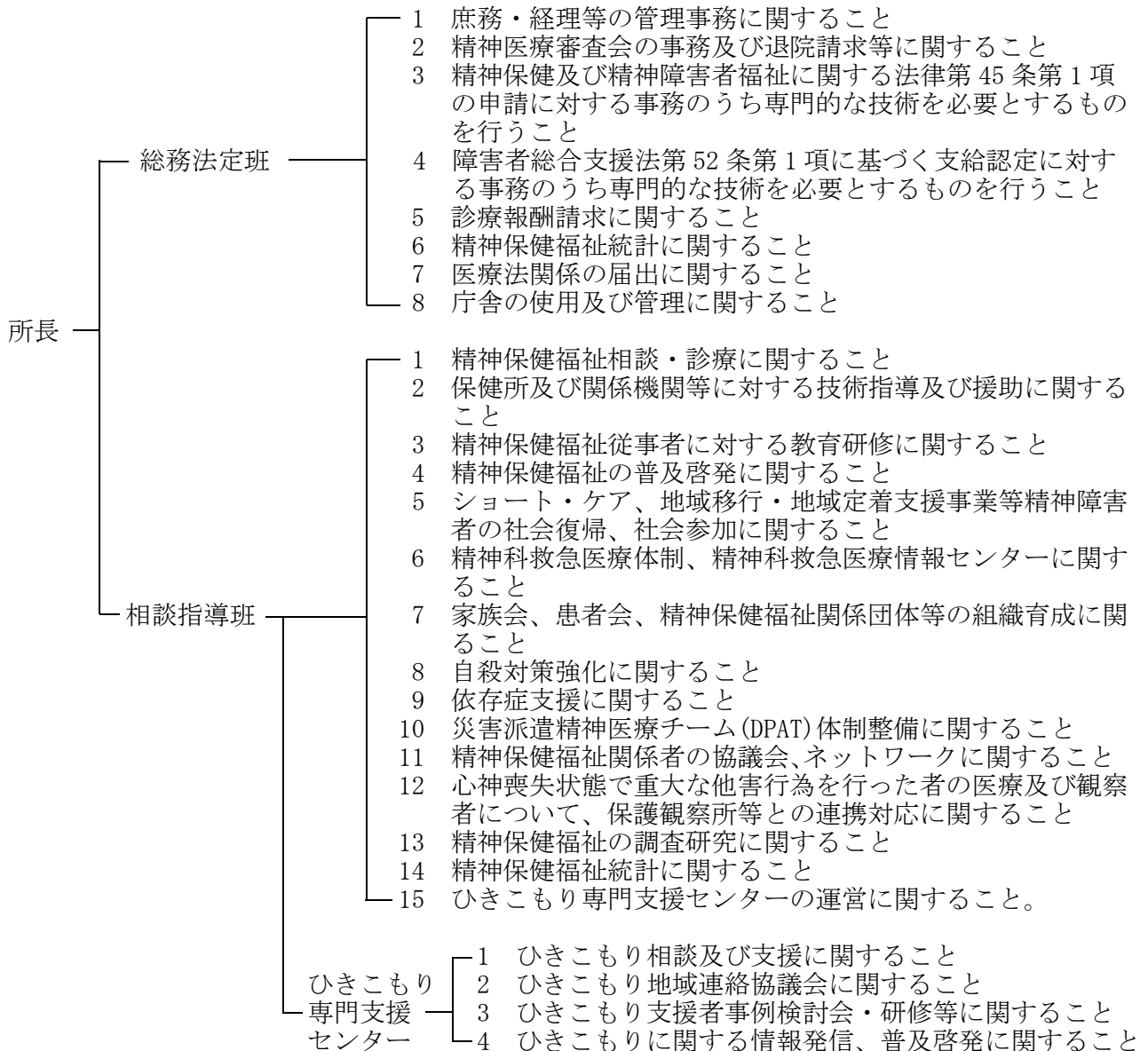
### 3 歴代所長

初代	屋良 澄夫	昭和 49 年 4 月～平成 元年 3 月(県立精和病院長兼務)
第 2 代	小渡 有明	平成 元年 4 月～平成 7 年 3 月
第 3 代	大嶺 経勝	平成 7 年 4 月～平成 9 年 3 月
第 4 代	中山 勲	平成 9 年 4 月～平成 11 年 3 月
第 5 代	仲村 永徳	平成 11 年 4 月～平成 15 年 3 月
第 6 代	新垣 米子	平成 15 年 4 月～平成 16 年 3 月
第 7 代	仲本 晴男	平成 16 年 4 月～平成 28 年 3 月
第 8 代	宮川 治	平成 28 年 4 月～現在に至る

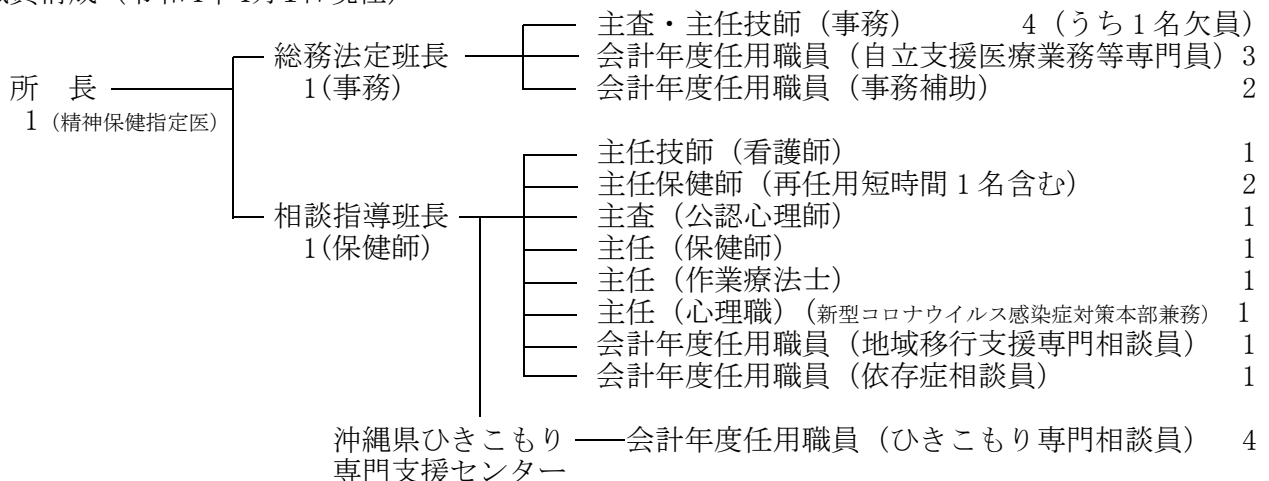
### 4 施設概要

- (1) 名称 沖縄県立総合精神保健福祉センター
- (2) 電話 事務所(代表) 098-888-1443  
 // (FAX) 098-888-1710  
 こころの電話 098-888-1450  
 こころの健康相談統一ダイヤル 0570-064556  
 新型コロナウイルス感染症に関するこころの電話 098-996-3163 (令和 5 年 3 月  
 未終了)  
 Email : xx031151@pref.okinawa.lg.jp
- (3) ホームページ <http://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/seishinhoken/index.html>
- (4) 所在地 沖縄県南風原町字宮平 212-3

## 5 組織及び事務分掌



### 職員構成 (令和4年4月1日現在)



## 6 年度別決算状況

## (1) 歳入

単位(円)

科目 \ 年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
使用料及び手数料	1,449,964	1,381,595	719,854	875,135	916,688
使用料	1,445,854	1,373,405	717,604	867,905	909,188
手数料	4,110	8,190	2,250	7,230	7,500
財産収入	162,000	162,000	33,990	33,990	33,990
諸収入	206,461	212,897	271,832	267,952	347,150
雑入	206,461	212,897	271,832	267,952	347,150
合計	1,818,425	1,756,492	1,025,676	1,177,077	1,297,828

## (2) 歳出(人件費を除く)

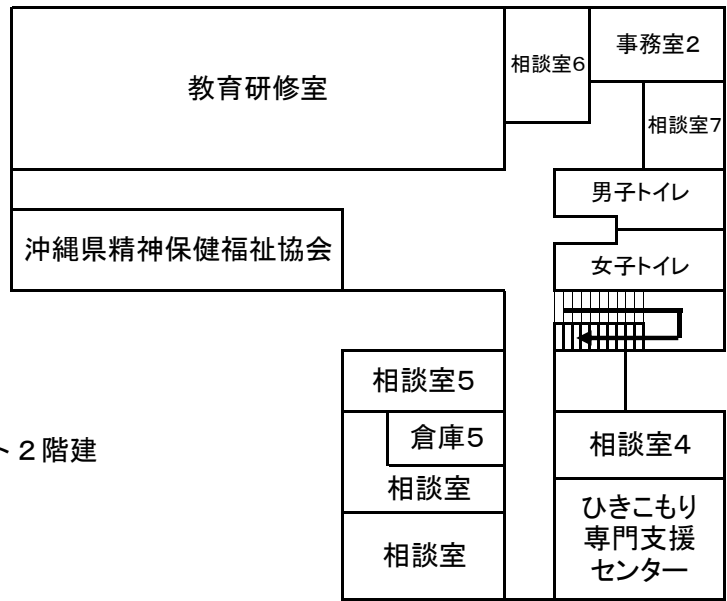
単位(円)

科目 \ 年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
総務費	0	0	0	0	0
衛生費	48,636,790	54,658,652	59,520,882	52,829,090	60,246,752
公衆衛生費	48,470,787	54,562,602	59,520,882	52,370,544	60,120,602
精神衛生費	48,470,787	54,562,602	59,445,903	52,370,544	60,120,602
予防費	0	0	74,979	0	0
医薬費	166,003	96,050	0	458,546	126,150
医務費	0	0	0	436,546	0
薬務費	166,003	96,050	0	22,000	126,150
民生費	907,166	965,861	867,016	518,982	71,352
社会福祉費	907,166	965,861	867,016	518,982	71,352
障害者自立支援諸費	907,166	965,861	867,016	518,982	71,352
合計	49,543,956	55,624,513	60,387,898	53,348,072	60,318,104



## 7 総合精神保健福祉センター平面図

【2階】

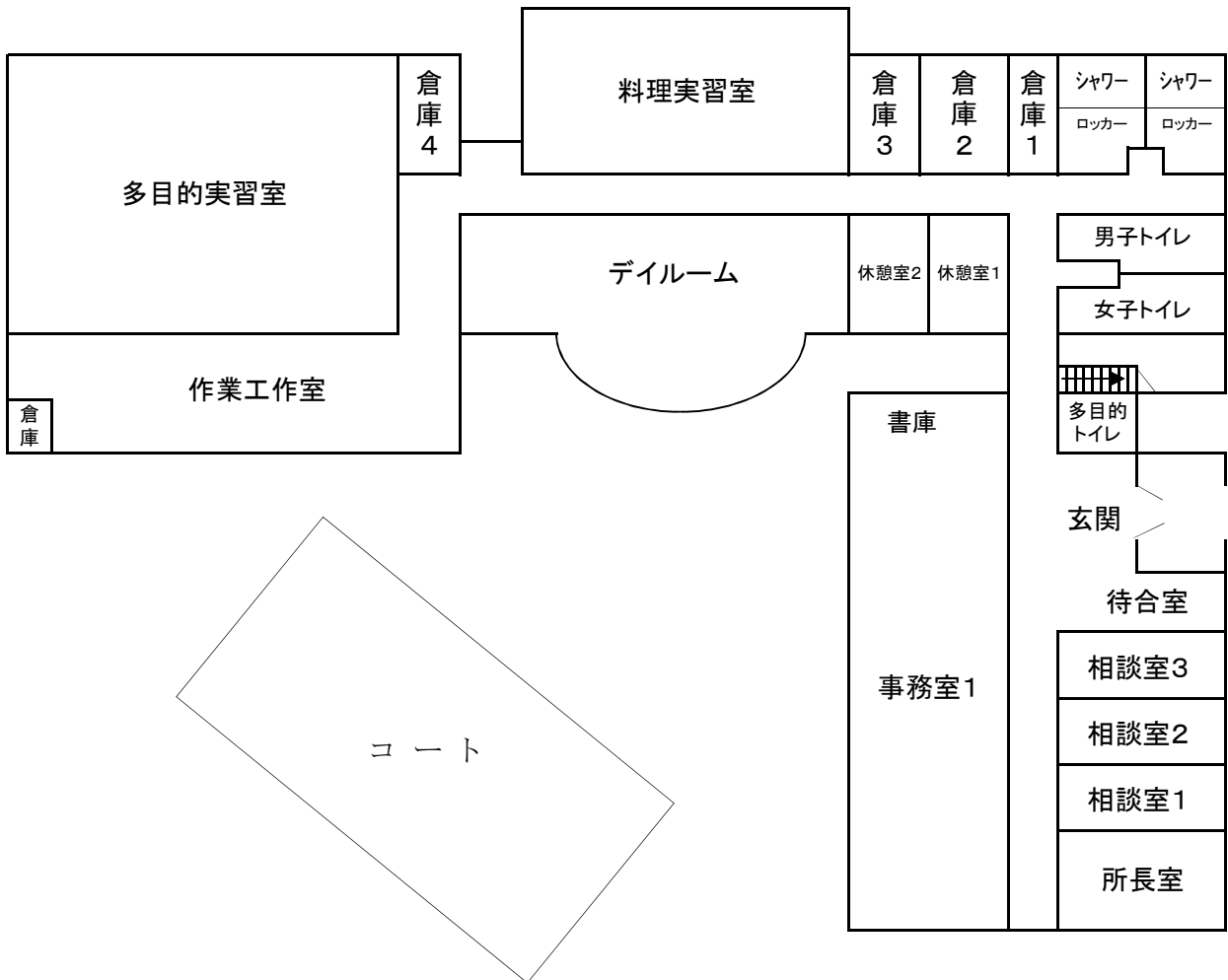


敷地面積 4410.33 m<sup>2</sup>

建物の構造 鉄筋コンクリート2階建

延べ床面積 1396.41 m<sup>2</sup>

【1階】



## Ⅱ 事業実績

(Ⅰ) 法定業務

(Ⅱ) 精神保健福祉相談事業

(Ⅲ) ショートケア及び家族支援事業

(Ⅳ) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

(Ⅴ) 精神科救急医療体制

(Ⅵ) ひきこもり専門支援センター

(Ⅶ) 調査研究・職員研修

## (I) 法定業務

## 1 自立支援医療(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定事務

精神障害者通院医療費公費負担等判定委員会は、12名の判定委員で構成され、令和4年度は毎月2回開催された。

自立支援医療(精神通院)の診断書による判定及び診断書無の承認件数は以下のとおりである。令和4年度の承認件数は53,384件(前年比3.9%(2,012件)増)であった。

精神障害者保健福祉手帳は、その精神疾患による初診から6ヶ月以上経過した診断書が必要である。有効期限は交付日から2年が経過する日の属する月の末日となっているため、2年毎に診断書による更新、障害等級に定める精神障害の状態について認定を行っている。令和4年度の手帳交付者数件数は11,075件(内訳1級2,732件、2級6,073件、3級2,270件。前年比2.8%(324件)減)であった。

※令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対応について

自立支援医療(精神通院):令和2年3月1日から令和3年2月末日までに受給者証の有効期間が満了する受給者を対象に、その有効期間を1年延長する措置(自動更新)が実施された。

精神障害者保健福祉手帳:令和2年3月1日から令和3年2月末日までの間に手帳の有効期限を迎える者のうち、更新時に医師の診断書を添えて提出する必要がある者については、障害者手帳申請書の提出を持って医師の診断書の提出を1年猶予した上での更新措置(臨時更新)が実施された。

○ 判定及び承認状況(診断書によるもの。数字は件数。)

## (1) 自立支援医療(精神通院)

区分	診断書有			診断書無 承認	コロナ対応 による自動 更新	承認合計
	判定 (うち保留分)	承認	不承認 (うち一部不承認)			
H30年度	23,068(830)	22,217	32(11)	22,701		44,918
R1年度	30,304(1,167)	29,100	49(12)	18,966		48,066
R2年度	18,703(1,962)	16,716	38(13)	7,231	27,638	51,585
R3年度	28,724(1,935)	26,757	72(40)	24,615		51,372
R4年度	32,051(1,334)	30,702	46(31)	22,682		53,384

## (2) 精神障害者保健福祉手帳

区分	判定 (うち保留分)	等級内訳			承認合計	不承認
		1級	2級	3級		
H30年度	9,632(691)	2,435	4,763	1,686	8,884	57
R1年度	11,248(901)	2,956	5,394	1,907	10,257	90
R2年度	10,846(1,269)	2,494	5,205	1,825	9,524	53
うち臨時更新		(97)	(228)	(58)	(383)	
R3年度	12,774(1,313)	3,151	6,021	2,227	11,399	62
R4年度	11,782(672)	2,732	6,073	2,270	11,075	32

## 2 精神医療審査会事務

精神医療審査会は、精神障害者の人権に配慮しつつその適正な医療及び保護を確保するために、精神科病院に入院している精神障害者の処遇等について専門的かつ独立的な機関として審査を行うために設置されたものである。

精神保健福祉法の改正により、平成14年4月1日から審査会の独立性をより強化するため審査会の事務は精神保健福祉センターで行うこととなった。

沖縄県精神医療審査会は、2合議体(医療委員6名・法律委員4名・有識者委員6名)で計16名の審査委員で構成されており、毎月2回(第1・第3金曜日)開催している。

審査業務としては、医療保護入院届・措置入院者及び医療保護入院者の定期病状報告書の書類審査と精神科病院に入院中の患者及びその家族等からの退院請求及び処遇改善の請求審査を行っている。

平成14年4月から退院等の請求の電話受理も精神保健福祉センターで行っており、令和4年度の電話相談件数は、320件であった。また、退院等の請求の受理から結果通知までに要した日数は、令和4年度は平均で27日となっている。

### (1) 報告書類の審査状況

区分	医療保護入院者の入院届				医療保護入院者の定期病状報告書				措置入院者の定期病状報告書				合計			
	審査件数	審査結果			審査件数	審査結果			審査件数	審査結果			審査件数	審査結果		
		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要
H30年度	3,417	3,416	0	1	1,220	1,220	0	0	32	32	0	0	4,669	4,668	0	1
R1年度	3,517	3,517	0	0	1,282	1,282	0	0	23	21	2	0	4,822	4,820	2	0
R2年度	3,572	3,571	0	1	1,319	1,319	0	0	24	23	1	0	4,915	4,913	1	1
R3年度	3,555	3,554	0	1	1,270	1,270	0	0	31	31	0	0	4,856	4,855	0	1
R4年度	3,465	3,464	0	1	1,289	1,289	0	0	24	24	0	0	4,778	4,777	0	1

### (2) 退院等請求の審査状況

区分	申請件数	退院請求						処遇改善						電話相談件数
		入院等は適当	他の入院形態へ移行が適当	入院継続不要	取り下げ	審査要件消失 退院等	審査結果			取り下げ	審査要件消失 退院等			
							入院等は適当	処遇は不適当	その他					
H30年度	計	90	77	0	0	9	4	6	2	1	0	1	2	335
R1年度	計	82	66	0	0	5	11	22	19	2	0	1	0	302
R2年度	計	103	93	1	1	7	6	11	9	0	0	2	0	301
R3年度	計	82	63	1	0	7	11	18	14	0	0	2	2	335
R4年度	措置入院	15	12	0	0	0	3	2	2	0	0	0	0	320
	医療保護	77	60	0	0	8	9	9	8	0	0	0	1	
	任意入院	1	1	0	0	0	0	4	0	0	0	1	3	
	計	93	73	0	0	8	12	15	10	0	0	1	4	

※審査結果欄には、年度における審査結果数(前年度申請分を含む)を計上しているため、申請件数とは異なる。

## (Ⅱ) 精神保健福祉相談事業

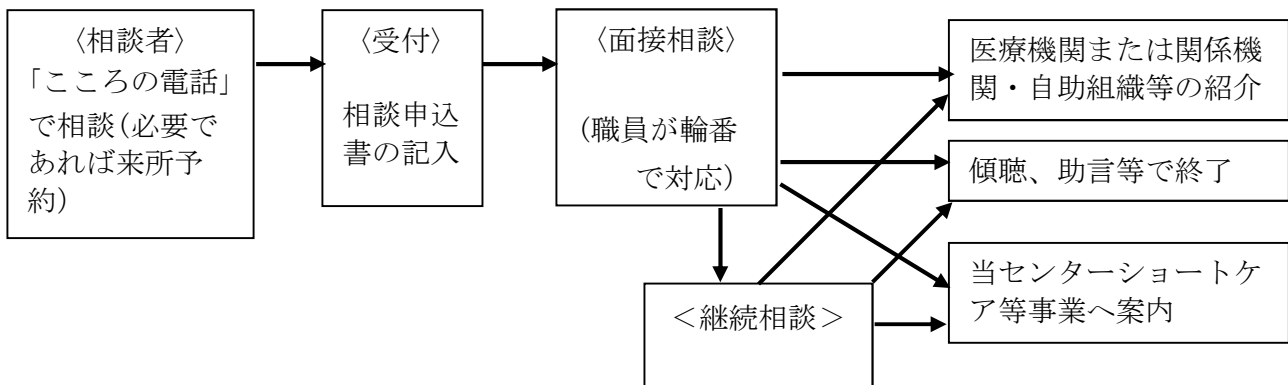
### 1 精神保健福祉相談業務概要

精神保健福祉センターでは精神保健福祉全般について、本人からの相談だけでなく家族、親戚、上司・同僚等関係者からの相談を受けている。心身の不調や病気治療、療養に関すること、依存に関すること、人間関係、仕事や学校に関すること、性格行動に関すること、その他ひきこもり、拒食・過食、自傷行為、過度のこだわり等による生きづらさなど様々な相談に応じている。また、医療機関や相談機関、福祉サービスなどの情報提供も行っている。相談は、職員(心理士、保健師、看護師、作業療法士等)が輪番で対応している。

### 2 来所相談

#### (1) 相談の流れ

直接来所を希望する人に対し面接相談を行うが、来所相談は予約制である。相談を希望する場合、まず「こころの電話:098-888-1450」に電話し、相談概要を伝え予約を取ることになっている。



#### (2) 来所相談日

月曜日～金曜日(祝日、年末年始、慰霊の日を除く。)  
9時～11時、13時～16時まで。

#### (3) 相談対象者の概要

相談件数は延べ166件で、対象者の性別を見ると、男性110件(66.3%)、女性56件(33.7%)である。相談実件数は139件、83.7%は一回の相談で終了している。

	実件数			延件数
	新規件数	初件数	小計	
合計	128	11	139	166
男	83	7	90	110
女	45	4	48	56

\* 新規件数: 初めて当センターに来所した件数

\* 初件数: 以前来所相談したことのある者で、本年度初めて来所した件数

## (4) 来所相談内容

来所の相談内容で最も多いのは、「依存の問題」92件で全体の55.4%を占め、次いで「病気等に関すること」が45件で27.1%であった。

相 談 内 容	相 談 実 件 数			相 談 延 人 員				相 談 内 容 別 割 合 (%)
	新	初	実数	男	女	不明	計	
<b>1 病気等に関すること</b>	<b>35</b>	<b>5</b>	<b>40</b>	<b>21</b>	<b>24</b>		<b>45</b>	<b>27.1</b>
(1) 病気でないかと不安・疑問	16	3	19	7	13		20	
(2) 治療に関すること	3		3	1	4		5	
(3) 療養生活上のこと	13	2	15	11	6		17	
(4) 社会復帰に関すること	3		3	2	1		3	
(5) 精神病以外の病気に関すること								
<b>2 性格行動上の問題</b>	<b>2</b>		<b>2</b>	<b>2</b>			<b>2</b>	<b>1.2</b>
<b>3 人間関係に関する問題</b>	<b>7</b>	<b>1</b>	<b>8</b>	<b>7</b>	<b>2</b>		<b>9</b>	<b>5.4</b>
(1) 家族関係(夫婦・親子)	4	1	5	5	1		6	
(2) 職場関係	2		2	2	0		2	
(3) その他	1		1		1		1	
<b>4 性に関すること</b>			<b>0</b>				<b>0</b>	<b>0.0</b>
<b>5 依存の問題</b>	<b>70</b>	<b>4</b>	<b>74</b>	<b>73</b>	<b>19</b>	<b>0</b>	<b>92</b>	<b>55.4</b>
(1) 酒害	15		15	13	5		18	
(2) 薬物	8		8	4	4		8	
(3) ギャンブル	40	4	44	50	8		58	
(4) ゲーム	5		5	5	1		6	
(5) その他	2		2	1	1		2	
<b>6 教育しつけに関すること</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>1</b>			<b>1</b>	<b>0.6</b>
<b>7 思春期の心身の悩み</b>			<b>0</b>				<b>0</b>	<b>0.0</b>
<b>8 非行・反社会的行動に関すること</b>			<b>0</b>				<b>0</b>	<b>0.0</b>
<b>9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>1</b>		<b>1</b>	<b>0.6</b>
<b>10 その他</b>	<b>12</b>	<b>1</b>	<b>13</b>	<b>6</b>	<b>10</b>		<b>16</b>	<b>9.7</b>
<b>合 計</b>	<b>128</b>	<b>11</b>	<b>139</b>	<b>110</b>	<b>56</b>	<b>0</b>	<b>166</b>	

## (5) 来所相談対象者の性別・年代別(延べ件数)

相談の対象者は30代、40代が40件24.1%で最も多く、次いで20代が36件で21.7%となっている。

項目 相談内容		性別				年代別									
		男	女	不明	計	～9	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
<b>1 病気等に関すること</b>		21	24		45	0	0	10	7	12	10	4	1	1	0
(1) 病気でないかと不安・疑問		7	13		20			6	3	3	4	3	1		
(2) 治療に関すること		1	4		5				1	2	2				
(3) 療養生活上のこと		11	6		17			3	2	6	4	1		1	
(4) 社会復帰に関すること		2	1		3			1	1	1					
(5) 精神病以外の病気に関すること															
<b>2 性格行動上の問題</b>		2	0		2		1	1							
<b>3 人間関係に関すること</b>		7	2		9	0	1	2	1	4	1	0	0	0	0
(1) 家族関係(夫婦・親子)		5	1		6		1	2	1	1	1				
(2) 職場関係		2	0		2					2					
(3) その他			1		1					1					
<b>4 性に関すること</b>		0	0		0										
<b>5 依存の問題</b>		73	19	0	92	0	8	21	26	20	11	2	2	0	2
(1) 酒害		13	5		18			1	4	7	4		1		1
(2) 薬物		4	4		8		2	2	2	1	1				
(3) ギャンブル		50	8		58		1	15	20	12	6	2	1		1
(4) ゲーム		5	1		6		3	3							
(5) その他		1	1		2		2								
<b>6 教育しつけに関すること</b>		1			1		1								
<b>7 思春期の心身の悩み</b>					0										
<b>8 非行・反社会的行動に関すること</b>					0										
<b>9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること</b>			1		1		1								
<b>10 その他</b>		6	10		16		1	2	6	4	1	1			1
<b>合計</b>		110	56	0	166	0	13	36	40	40	23	7	3	1	3
<b>割合 (%)</b>		66.3	33.7	0.0		0	7.8	21.7	24.1	24.1	13.9	4.2	1.8	0.6	1.8
再掲	ひきこもり	3	2		5		1	2	2						
	うつ	10	5		15			3	7	3	1	1			
	自殺	4	5		9			1	3	3	1	1			

## (6) 来所相談の処遇状況(延べ件数)

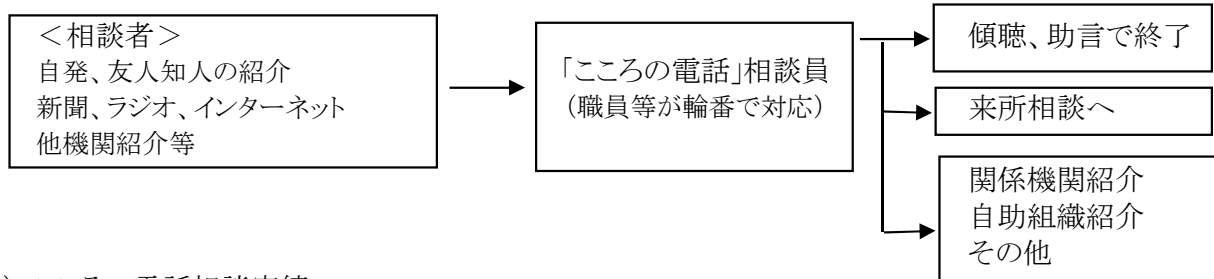
相談者の処遇は「指導助言」が78件47.0%、次いで「継続相談のすすめ」が24件14.5%となっている。

区分 相談内容	指導助言	他機関を紹介				自助グループ紹介	センター ア 紹 介	紹介 回 数	セ ン ター プ ロ グ ラ ム	継続 相 談 の す す め	合 計
		医 療 機 関	保 健 所	市 町 村	そ の 他						
<b>1 病気等に関すること</b>	<b>30</b>	<b>9</b>	<b>3</b>	<b>0</b>	<b>2</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>45</b>	
(1) 病気でないかと不安・疑問	11	6	1		1				1	20	
(2) 治療に関すること	3	1	1							5	
(3) 療養生活上のこと	14	1	1		1					17	
(4) 社会復帰に関すること	2	1								3	
(5) 精神病以外の病気に関すること										0	
<b>2 性格行動上の問題</b>	<b>1</b>	<b>1</b>								<b>2</b>	
<b>3 人間関係に関する問題</b>	<b>6</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>9</b>	
(1) 家族関係(夫婦・親子)	5								1	6	
(2) 職場関係		1	1							2	
(3) その他	1									1	
<b>4 性に関すること</b>										<b>0</b>	
<b>5 依存の問題</b>	<b>28</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>10</b>	<b>9</b>	<b>0</b>	<b>20</b>	<b>19</b>	<b>92</b>	
(1) 酒害	7	2			2	3			4	18	
(2) 薬物	1			1	5	1				8	
(3) ギャンブル	16	2			2	5		20	13	58	
(4) ゲーム	3	1			1				1	6	
(5) その他	1								1	2	
<b>6 教育しつけに関すること</b>	<b>1</b>									<b>1</b>	
<b>7 思春期の心身の悩み</b>										<b>0</b>	
<b>8 非行・反社会的行動に関すること</b>										<b>0</b>	
<b>9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること</b>	<b>1</b>									<b>1</b>	
<b>10 その他</b>	<b>11</b>			<b>1</b>	<b>1</b>				<b>3</b>	<b>16</b>	
合 計	78	16	4	2	13	9	0	20	24	166	
割合(%)	47.0	9.6	2.4	1.2	7.8	5.4	0.0	12.1	14.5		
再 掲	ひきこもり	3	1						1	5	
	う つ	7	3	1		1		1	2	15	
	自 殺	4		1		1		1	2	9	



### 3 こころの電話相談(心の健康づくり相談事業)

#### (1) 相談の流れ



#### (2) こころの電話相談実績

##### ア 相談実績について

こころの電話相談事業は、専用電話回線を用い、月・水・木・金の9:00～11:30/13:00～16:30に精神保健福祉全般について相談を受けている。

令和4年度のこころの電話相談の総件数は4,321件であった。相談開設日数は193日、1日の平均相談件数は、22.4件であった。新型コロナウイルス感染症に係る国の自殺防止対策の補正予算を申請し、令和2年12月から電話回線を2回線に増設し2体制で実施している。

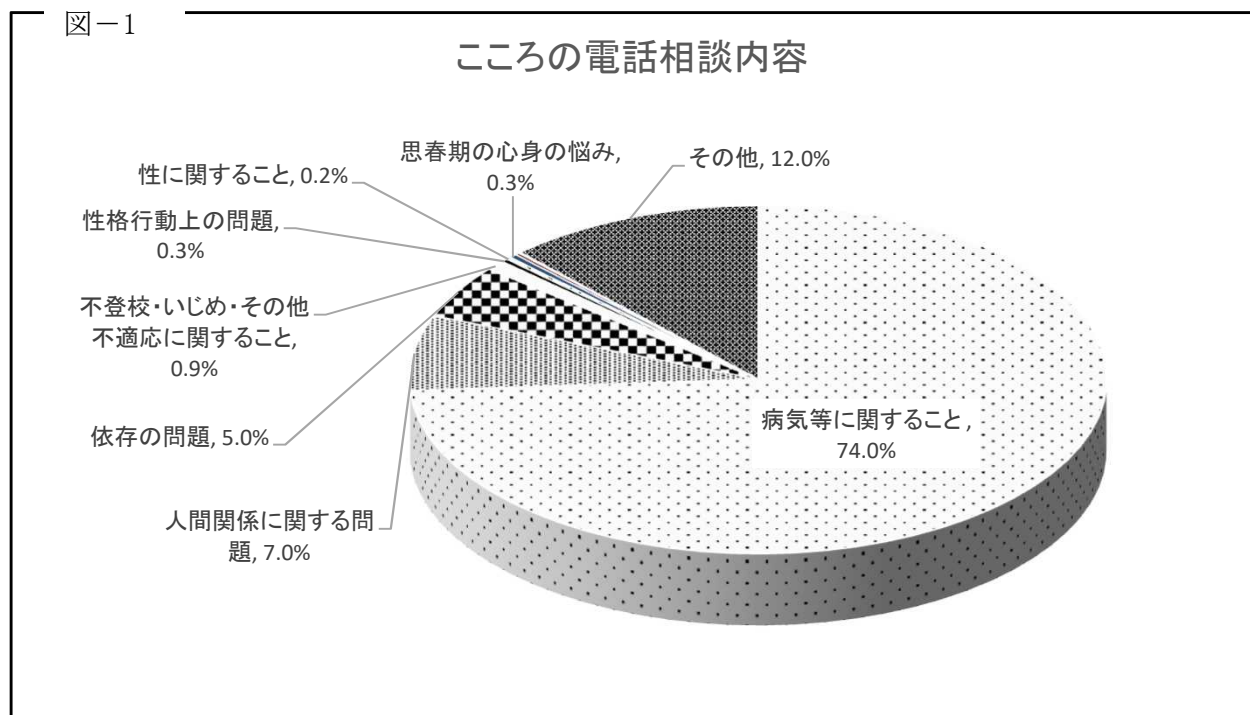
年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
総件数	2,145	2,612	3,279	4,379	4,321
開設日数	194	193	196	191	193

##### イ 相談者、相談内容について

相談内容は「病気等に関すること」が3,196件(74.0%)を占め、次に「人間関係に関する問題」302件(7.0%)、「依存の問題」215件(5.0%)となっている。その他の相談が517件と12.0%を占め、内容は、新型コロナウイルス感染症に関する相談が91件、無言電話等であった。

処遇状況としては、指導助言が3,553件(82.2%)、他機関への紹介440件(10.2%)、当センターへの来所相談紹介126件(2.9%)となっている。

図-1



## ウ 相談内容及び対象者・通話者(こころの電話相談)

区分 相談内容	対象者				通話者							
	男	女	不明	合計	本人	家族	近親者親戚等	友人近隣等	教育関係者	関係機関者	その他	合計
1 病気等に関する事	1,345	1,837	14	3,196	2,923	216	9	20	7	17	4	3,196
(1) 病気でないかと不安・疑問	79	117	4	200	99	82	4	7	3	4	1	200
(2) 治療に関する事	88	136	7	231	119	86	4	8	3	9	2	231
(3) 療養生活上の事	1,150	1,549	3	2,702	2,650	43	1	3	1	3	1	2,702
(4) 社会復帰に関する事	21	15		36	30	3		2		1		36
(5) 精神病以外の病気に関する事	7	20		27	25	2						27
2 性格行動上の問題	4	9		13	12	1						13
3 人間関係に関する問題	81	220	1	302	260	33	1	7	0	1	0	302
(1) 家族関係(夫婦・親子)	33	79		112	82	28	1			1		112
(2) 職場関係	17	24		41	39	1		1				41
(3) その他	31	117	1	149	139	4		6				149
4 性に関する事	3	7		10	7	1		2				10
5 依存の問題	158	51	6	215	59	122	6	4	2	20	2	215
(1) 酒害	62	20	2	84	24	49	2	1	2	6		84
(2) 薬物	19	7	1	27	3	17	1	2		3	1	27
(3) ギャンブル	55	17	2	74	26	41				6	1	74
(4) ゲーム	12	1	1	14	1	9	3			1		14
(5) その他	10	6		16	5	6		1		4		16
6 教育しつけに関する事	7	2		9	1	8						9
7 思春期の心身の悩み	4	11		15	4	11						15
8 非行・反社会的行動に関する事	2	2		4	1	2	1					4
9 不登校・いじめ・その他不適	12	27	1	40	9	31						40
10 その他	161	244	112	517	333	44	1	9	3	20	107	517
合計	1,777	2,410	134	4,321	3,609	469	18	42	12	58	113	4,321
割合(%)	41.1	55.8	3.1		83.5	10.9	0.4	1.0	0.3	1.3	2.6	
再掲	ひきこもり	7		7	1	5	1					7
	うつ	36	60	2	98	74	19		2	3		98
	自殺	37	63	2	102	81	8	2	9	1	1	102

## エ 処遇状況(こころの電話相談)

区分 相談内容	指導 助 言	他機関を紹介				自 助 グ ル ー プ 紹 介	セ ン タ ー シ ョ ー ト ケ ア	セ ン タ ー 来 所 相 談	依 存 相 談	セ ン タ ー ギ ャ ン ブ ル	継 続 相 談 の す す め	途 中 で 切 れ る	合 計
		医 療 機 関	保 健 所	市 町 村	そ の 他								
1 病気等に関すること	2,885	150	29	15	39	4	0	42	0	3	29	3,196	
(1) 病気でないかと不安・疑問	87	80	7	4	7			13		2		200	
(2) 治療に関すること	133	55	14	3	13			12			1	231	
(3) 療養生活上のこと	2,614	12	7	7	14	4		16		1	27	2,702	
(4) 社会復帰に関すること	28	1	1		4			1			1	36	
(5) 精神病以外の病気に関すること	23	2		1	1							27	
2 性格行動上の問題	10				2					1		13	
3 人間関係に関する問題	249	13	2	5	19	0	0	8	0	1	5	302	
(1) 家族関係(夫婦・親子)	85	6	1	3	9			6		1	1	112	
(2) 職場関係	27	6			4			1			3	41	
(3) その他	137	1	1	2	6			1			1	149	
4 性に関すること	8	1			1							10	
5 依存の問題	80	14	9	5	24	4	0	60	16	3	0	215	
(1) 酒害	32	7	4	3	10	3		24		1		84	
(2) 薬物	9	3	2		5	1		6		1		27	
(3) ギャンブル	26	1	1		5			25	16			74	
(4) ゲーム	7		1		2			3		1		14	
(5) その他	6	3	1	2	2			2				16	
6 教育しつけに関すること	5				3			1				9	
7 思春期の心身の悩み	4	5	1		2			3				15	
8 非行・反社会的行動に関すること	2			1							1	4	
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	18	12			7						3	40	
10 その他	292	29	6	3	43			12		4	128	517	
合計	3,553	224	47	29	140	8	0	126	16	12	166	4,321	
割合 (%)	82.2	5.2	1.1	0.7	3.2	0.2	0.0	2.9	0.4	0.3	3.8		
再 掲	ひきこもり	3			4							7	
	うつ	68	17	1	1	9		1			1	98	
	自殺	72	13	1		6		7			3	102	

#### 4 特定相談(再掲)

「精神保健福祉センターにおける特定相談指導実施要領」により、アルコール関連問題及び思春期精神保健に関する総合的な相談指導等の事業を図ることとされている

##### (1) 思春期相談

令和4年度の相談は延べ109件(電話相談99件、来所相談10件)であった。相談対象者を性別に見ると男性49人(45.0%)、女性56人(51.4%)、不明4人(3.6%)である。相談内容で最も多いのは、「不登校・いじめに関すること」の相談27件(電話相談26件、来所相談1件)で全相談件数の24.8%を占めている。

	電話相談				来所相談			
	男	女	不明	総数	男	女	不明	総数
1 病気等に関すること	9	13	3	25				
2 性格行動上の問題					1			1
3 人間関係に関する問題	2	3		5	1			1
4 性に関すること	1	2		3				
5 依存の問題	12			12	5	1		6
6 教育しつけに関すること	3	2		5	1			1
7 思春期の心身の悩み	4	8		12				
8 非行・反社会的行動に関すること	1	1		2				
9 不登校・いじめ・その他不適応に関すること	8	18		26		1		1
10 その他	1	7	1	9				
合 計	41	54	4	99	8	2	0	10
(再掲) 発達障害の相談	1	2	1	4	2			2

##### (2) 依存に関する相談(うちアルコール関連問題に関する相談)

令和4年度の酒害に関する電話、来所相談の総数は102件あり、電話相談84件、来所相談18件であった。相談対象者を性別に見ると、男性75件(73.5%)、女性25件(24.5%)となっている。

	電話相談				来所相談			
	男	女	不明	総数	男	女	不明	総数
1 酒害	62	20	2	84	13	5		18
2 薬物	19	7	1	27	4	4		8
3 ギャンブル	55	17	2	74	50	8		58
4 ゲーム	12	1	1	14	5	1		6
5 その他	10	6		16	1	1		2
合 計	158	51	6	215	73	19	0	92

## 5 診療

当センターでは精神保健相談の一環として、必要に応じ診療を行っている。

令和4年度の診療状況は実人員1人、延人員4人であった。

### (1) 年齢別年度推移(延人員)

年齢別	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
0～9						
10～19	1	2	2			
20～29	2	2	3	3		
30～39	1	2	2	1	5	4
40～49	1					
50～59		1	2			
60～69						
70～						
計	5	7	9	4	5	4

### (2) 内訳・月別診療延べ人数(実人員1人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
ひきこもり	1				1			1			1		4
児童・思春期													0
複雑困難事例													0
依存症													0
計	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	4

## 6 ギャンブル障害(依存症)回復プログラム

ギャンブルの問題を抱える当事者支援として、下記事業を実施。

実施日時	第4火曜日 15時～16時半
実施回数	前期(令和4年4月～9月)6回、後期(令和4年10月～令和5年3月)6回
実施内容	集団療法(SAT-G)
参加延人数	登録人数:R4年4月～35人(R2 10人/R3 22人/R4 27人) 参加延人数: 83人(前期 34人、後期 49人) 参加平均人数:6.1人(R3 5.3人) ※受入面接実施後の不参加者1名、参加1回での中断者4名
職員	4人(保健師、作業療法士、精神保健福祉士、看護師他)

## 7 新型コロナウイルス感染症に対応した心のケア支援事業

令和2年5月から事業開始し、翌6月から専用回線による電話相談を開始、8月から業務委託先の沖縄県公認心理師協会と連携しクラスター発生施設等職員のメンタルヘルス支援を、9月から情報共有を図るため定期的な実務者オンライン会議を開催している。

令和4年度について、コロナによるストレスに県民は上手に対処できるようになってきたようで、下半期の相談件数の大幅な減少に伴い令和5年3月で電話相談等直接支援を終了した。

### (1) 相談対象者の性別・年代別

	性別				年 齢								
	男	女	不明	計	～19	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	不明
相談延件数	26	64	1	91	0	3	3	3	5	6	1	0	70

### (2) 相談内容

1	感染症そのもの（相談者本人・家族の感染への不安、人に感染させる不安、疾患に関する疑問など）	49
2	感染症にまつわる差別や偏見	0
3	国や自治体の対応への不満	1
4	行動制限（外出、買い物等）	3
5	家庭問題（家庭内のストレスの増加、緊張感の増大、DV、虐待、コロナ離婚等）	1
6	勤務内容の逼迫（労働時間の増加、緊張感の増加等）	0
7	勤務先の感染対策の不備	0
8	職業生活様式の変化（一時帰休、自宅待機、在宅勤務）	0
9	失業、収入減少（コロナ解雇、派遣切り等）	0
10	生活困窮	0
11	経営難、営業自粛	0
12	罹患後症状（後遺症）	21
13	ワクチン接種・副反応に対する不安	1
14	ワクチン接種後の副反応	5
15	健康問題、感染症以外の病気（通院自粛、手術の延期等）	1
16	余暇の制限（レジャー施設・スポーツジム等の閉鎖、旅行制限）	0
17	その他（心のケア体制への問い合わせ、Cocoaについて、他県の電話相談、時短要請について）	9
	計	91

※厚生労働省「新型コロナウイルス感染症に係るメンタルヘルスに関する調査」より一部項目改変

### (3) 沖縄県公認心理師協会とクラスター発生施設等関係機関をつなぐ連絡調整

施設数	訪問	電話調整	施設の内訳
3	2	1	医療機関(2)、高齢者施設(1)

### (4) 実務者オンライン会議等

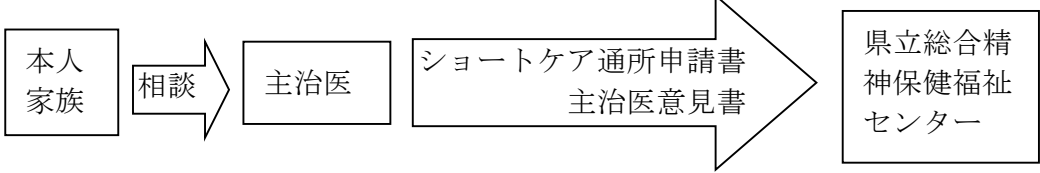
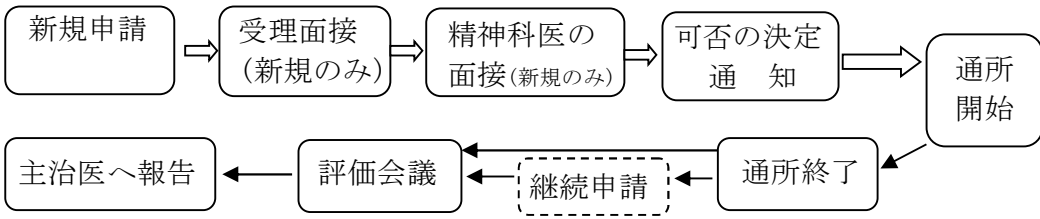
実施月	回数	参加機関
4～5月を除く10ヶ月	42回	DPAT統括者及び先遣隊隊員、沖縄県公認心理師協会、精神科リエゾン医師、地域保健課、県コロナ対策本部、当センター等

## (Ⅲ) ショートケア及び家族支援事業

## 1 薬物・アルコール依存症ショートケア

## (1) 薬物・アルコール依存症ショートケア概要

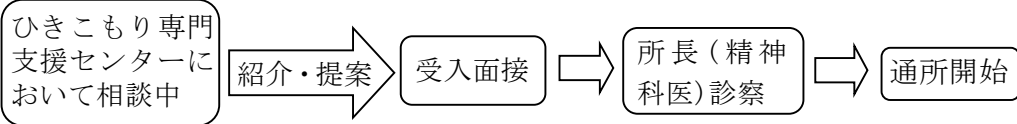
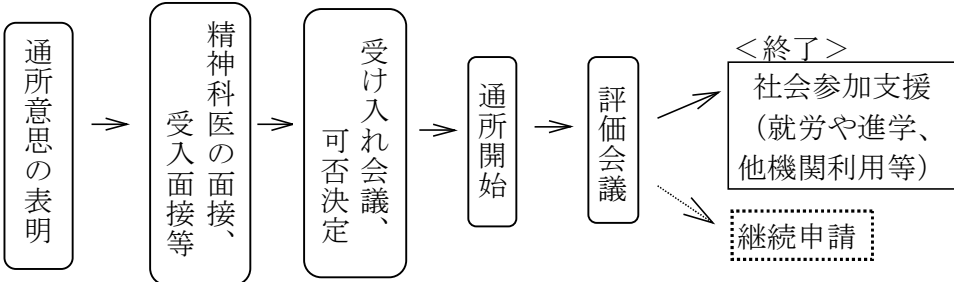
平成 28 年 10 月より、集団療法 (SMARPP)※と作業療法を用いた、「薬物・アルコール依存症ショートケア」を開始した。令和 4 年度については、感染症対策の業務縮小 (BCP) のため中止とした。

目 的	薬物あるいはアルコール依存症と診断された方の健康回復と社会参加促進及び生活の質の向上を図る。
対 象 者	薬物依存症、アルコール依存症と診断された、おおむね 18 歳以上の者
定 員	20 人
日 時	毎週木曜日 9 時 30 分～12 時 30 分 (3 時間) ※健康チェック・医師面接 9 時～
実施期間	前期:4 月～9 月 後期:10 月～3 月 随時受入可 (途中からの参加も認める)
費 用	医療保険、自立支援医療費 (精神通院) を適用 ※交通費は自己負担
内 容	① 認知行動療法 = CBT (物質使用障害治療プログラム = SMARPP) ② 作業療法: 陶芸、革細工、ヨーガ 等 ③ 必要に応じて個別相談
申込み方法	※通所申請書に精神科主治医意見書を添えて申し込む 
申請から終了までの流れ	
評価報告書	クール終了後に医師、心理士、作業療法士を中心に「評価報告書」を作成し、各主治医へ送付する。
スタッフ	精神科医 作業療法士 看護師 保健師 心理士 ※上記より精神科医と作業療法士を中心に参加 ※沖縄ダルクや琉球 GAIA より当事者スタッフを招聘 ※作業療法 (ヨーガ・陶芸・革細工) には、各専門講師を招聘
記録類	① 日誌 ② 個人記録 ③ 出席簿 ④ 評価報告書

## 2 ひきこもりショートケア

### (1) ひきこもりショートケア概要

当センターでは、平成29年2月よりひきこもりデイケアを開始し、令和2年4月からはショートケア(3時間)として実施。個別の相談・支援を行うと共に、集団の効果を活かしたアプローチを行い、基本的なソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを身につけ就学・就労など社会の中で自分らしく生きることを目的とする。

目的	ひきこもり当事者に対して、個別活動や集団活動等を通して自己受容や自信の回復を促進し、社会参加及び生活の質の向上を図る。
対象者	<ul style="list-style-type: none"> <li>ひきこもり専門支援センターにおいて相談支援中の本人で、利用が適当と所長(医師)が認める者</li> <li>おおむね15歳以上の者(義務教育終了者)</li> </ul>
定員	概ね10名程度
回数・時間	毎週火曜日 ・9時30分～12時30分までの3時間
通所期間	原則、2年まで通所利用できるとするが、本人の要望や支援の状況に応じて継続通所も可能
費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通費は自己負担</li> <li>デイケア料等の医療費は、医療保険、自立支援医療費(精神通院)を適用。</li> </ul>
内容	回復段階に応じ、個別の並行活動(読書、勉強、ゲーム、くつろぎ、トークなど)、小集団活動(陶芸、革工芸、園芸、スポーツなど)、社会資源の体験会、外出等実施
申込み方法	<p>通所を希望する者は、ひきこもり専門支援センターを通して申込み。ひきこもり専門支援センターの職員は、相談支援の過程でショートケア通所が適当と思われる当事者については、ショートケアを紹介し、受理会議及び所内カンファレンスで提案する。</p> 
申請から終了まで	
他機関への経過報告	継続支援に係る機関に対してショートケア評価報告書(任意様式)を送付する
スタッフ	① 精神科医師 ② 作業療法士 ③ 看護師 ④ 保健師 ⑤ 心理士
記録類	① 日誌 ② 個別記録 ③ 出席簿 ④ 臨床評価報告書 等



## (2) ひきこもりショートケア利用者の状況

## ① 性別・年齢別利用者数(人) ※体験利用者を含む

年齢区分	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	計
性別 期	男	男	男	男	男	男	男
	女	女	女	女	女	女	女
通年 (4～3月)	0	7	2	2	0	0	11
	1	14	4	5	0	0	24

## ② 保健所圏域別利用者数(人) ※体験利用者を含む

保健所 期	北部	中部	那覇	南部	宮古	八重山	合計
通年	0	4	8	12	0	0	24

## ③ 参加状況 ※体験利用者を含む

	項目	通所者 数	参加延 数
	性別		
通年	男	11	131
	女	13	212
	計	24	343

## ④ プログラム別実施状況

項目	回数
クッキング	2
陶芸(自主活動を含む)	9
所外活動(施設見学等)	2
革工芸(自主活動を含む)	18
スポーツ(卓球・グランドゴルフ・ストレッチ等)	4
園芸	3
映画鑑賞	3
学習会(事業所紹介)	2
その他制作活動・アロマ・コーヒー焙煎等	6
計	49

上記はメインの活動。パラレルな自主活動をベースとし、上記活動を実施。  
また、個別面談、卓上ゲーム、筋肉トレーニングなどを取り入れた。

### 3 家族支援

#### (1) ひきこもり家族教室

目 的:家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者:ひきこもり専門支援センターで支援している家族

場 所:当センター 2階教育研修室

開催日	内 容	参加者
第1回 R4年 5月11日(水)	講話:「ひきこもりのメカニズムと対処法」 講師:当センター所長 医師 宮川 治	17世帯 22名
第2回 R4年 10月7日(金)	講話:「ひきこもりの理解のために」 講師:当センター心理士 川上 健太	18世帯 23名
第3回 R4年 12月21日(水)	① 講話:「ひきこもり支援のステップアップ及びショートケア紹介」 講師:当センター心理士 川上 健太 ② 講話:「地域若者サポートステーションの紹介」 講師:地域若者ステーション琉球八重山 統括責任者 吉長 顕 氏 ③ 講話:「就職・生活支援パーソナルサポートセンターの紹介」 講師:沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター統括責任者 名嘉 泰 氏 ④ 講話:「福祉サービス事業及びB型事業所 Kuponoの紹介」 講師:就労継続支援B型事業所 Kupono 作業療法士 坂本 緑 氏 ⑤ 講話:「ひきピアルーム及び侍学園の紹介」 講師:坂本 緑 氏 侍学園校長 坂本 将史 氏 ⑥ 質疑応答	20世帯 22名
第4回 R5年 2月8日(水)	① 講話:「ひきこもりの親の体験談」 講師:北部不登校・ひきこもりを考える会 親川 久巳 氏 ② 講話:「ひきこもり経験者の体験談」 講師:アソシア ホイスコーレ 山城 愛永 氏 ③ 質疑応答・意見交換機	25世帯 30名

#### (2) ひきこもり家族向け講演会

目 的:家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者:ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、当事者(当センターを利用している方を中心に募集)

場 所:沖縄県総合福祉センター 1階ゆいぽーる

開催日	内 容	参加者
R4年 6月4日 (土)	講話：「ひきこもり家族の資金計画」 講師：『働けない子どものお金を考える会』 メンバー ファイナンシャルプランナー 村井 英一 氏	総計 68 名 (内訳) 家族 55 名 支援者 13 名

## (3) ギャンブル障害家族のつどい(R4年.10月～新規)

## ギャンブルの問題を抱える家族支援として実施

実施日時	第2火曜日 13時半～16時
実施回数	令和4年後期～開始(令和4年10月～令和5年3月)6回
実施内容	ミーティング形式の座談会・スピーカーによる体験談・ バウンダリー・アサーティブコミュニケーション等のワーク
参加延人数	登録人数：R4年4月～20人 参加延人数：41人 参加平均人数：7.2人
職 員	4人(保健師、作業療法士、看護師等)

## (IV) 教育研修、普及啓発、技術援助、組織育成支援

## 1 研修会・講演会

地域における精神保健の充実を図るため、保健所、関係機関の職員に対して、研修会及び講演会、連絡会議等を実施した。

## (1) 研修会

研修等名 (期日・場所)	内 容(テーマ、演題) 講 師	対象及び 参加人員
精神保健福祉担当職員初任者研修 R4年5月18日(水) 9:00～17:00 ※Zoomを用いたオンライン研修	1 『沖縄県の精神保健福祉の動向』 講師:沖縄県地域保健課精神保健班 班長 伊波 善之 氏 2 『総合精神保健福祉センターの役割等』 講師:総合精神保健福祉センター 相談指導班 班長 赤嶺 清美 3 『精神通院医療費公費負担制度及び精神障害者保健福祉手帳制度』 講師:総合精神保健福祉センター 総務法定班 主査 大城 裕子 4 『精神障がい者の理解と対応の仕方』 講師:総合精神保健福祉センター 所長 宮川 治 5 『発達障がい者の理解と支援』 講師:沖縄県発達障がい者支援センター がじゅま〜る 高山 朝陽 氏 6 『精神障がい者の支援と市町村へ期待すること ～実践事例を通して～』 講師:地域生活支援センターウェーブ 所長 安村 勤 氏	対象:市町村、保健所及び福祉事務所において令和4年度に新たに精神保健福祉業務に従事する者 参加者:69人 (35機関)
アルコール依存症支援者研修 R4年6月21日(火) 14:00～16:30 ※Zoomを用いたオンライン研修	テーマ:『やめさせないアルコール依存症治療 ～精神科受診を拒否する患者について～』 講師:沖縄医療生協中部協同病院 内科医 犬尾 仁先生	対象:保健所、福祉事務所、市町村、医療機関でアルコール依存症者の回復支援に従事する者 参加者:112人 (45機関)
自死遺族支援者研修 R4年9月20日(火) 14:00～16:00 ※Zoomを用いたオンライン研修	テーマ:『家族を自殺で亡くした遺族が望む情報提供と支援 ～地域の支援者として心がけたいこと～』 講師:岡山県立大学福祉保健学部現代福祉学科 准教授 大倉 高志 氏	対象:保健・医療・福祉、支援者等 参加者:90人 (38機関)

<p>精神科救急医療関係者研修会 R4年9月26日(月) 14:00～16:00 ※集合とWebのハイブリッド</p>	<p>講話:『警察官通報にかかる措置入院について』 講師:沖縄中央病院精神科医師 奥野 栄太 氏 講話:『警察官職務執行法 ～保護要件と警察の役割～』 講師:沖縄県警察生活安全企画課 仲本 健 氏 講話:『精神科救急情報センターの役割とシステムの運用について』 講師:総合精神保健福祉センター 相談指導班 當山 晃 座談会:『精神科と地域の連携を考える』 座長:総合精神保健福祉センター 所長 宮川 治</p>	<p>対象:精神科救急を持つ医療機関・保健所・警察署・消防職員、救急情報センター相談員 参加者:166名超(70機関)</p>
<p>精神障害者地域移行・地域定着支援研修 R4年10月19日(水) 13:30～15:30 ※Zoomを用いたオンライン研修</p>	<p>テーマ:『精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築 地域ケア会議と個別支援～退院支援につなげるには～』 講師:山形県立保健医療大学保健医療学部 教授 安保 寛明 氏 報告:「沖縄県の長期入院等状況及び事前アンケート結果」 報告者:総合精神保健福祉センター 相談指導班 伊敷 美弥 質疑応答</p>	<p>対象:精神科医療機関及び保健所・市町村・福祉事務所・各事業所等職員(看護師・PSW・OT・心理士・保健師等) 参加者:165人(68機関)</p>
<p>思春期自殺予防研修会 R4年10月20日(木) 10:00～12:00 ※Zoomを用いたオンライン研修</p>	<p>テーマ:『子どもたちの心を守るために私たちにできること』 講師:一般社団法人 高橋聡美研究室 代表 高橋 聡美 氏</p>	<p>対象:学校職員等 参加者:141人(72機関)</p>
<p>ギャンブル依存症(障がい)支援者研修 R4年11月11日(金) 13:00～16:30 ※Zoomを用いたオンライン研修</p>	<p>テーマ:『ギャンブル障害の疾患の理解と琉球病院の治療の実際について』 講師:琉球病院/精神科医 中井美紀 氏</p>	<p>対象:保健所・福祉事務所・市町村、医療機関、回復施設等においてギャンブル障害(依存症)の回復支援に従事する者 参加者:123人(44機関)</p>

<p>かかりつけ医等心の健康対応力向上研修 R4年11月25日(金) 19:00～21:00 ※Zoomを用いたオンライン研修 ※後援:沖縄県医師会</p>	<p>テーマ:『コロナ禍における若者の生きづらさ:自傷とOD』 講師:国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究薬物依存研究部 部長/薬物依存症センターセンター長 松本 俊彦 氏 座長:琉球大学大学院医学研究科 精神病態医学講座 教授 近藤 毅 氏</p>	<p>対象:内科医、小児科医等かかりつけ医、精神科医、学校医、研修医、医療保健福祉関係者等 参加者:90人</p>
<p>ひきこもり支援者研修 R4年12月8日(木) 9:30～11:45</p>	<p>テーマ:『ひきこもりと対話的支援』 講師:筑波大学医学医療系社会精神保健学 教授 斉藤 環 氏 場所:沖縄県医師会館 大ホール 座長:総合精神保健福祉センター 所長 宮川 治</p>	<p>参加者:70人 (43機関)</p>
<p>災害派遣精神医療チーム(DPAT)研修会 R4年12月14日(水) 9:00～17:00</p>	<p>講師及びファシリテーター:浦添総合病院、沖縄リハビリテーションセンター病院、琉球病院、精和病院、平安病院、南部医療センター、琉球こころのクリニック、地域保健課等から16名(医師、看護師、公認心理師、精神保健福祉士、作業療法士、事務・行政職等) 内容:講義及び演習 プログラム1 講義 県内の災害医療体制 プログラム2 講義 災害医療概論 CSCATTTとDPAT活動 プログラム3 講義 DPATへの出動要請について (発災時からDPAT派遣要請まで) プログラム4 講義・実習 派遣の準備とEMIS プログラム5 講義 本部運営と記録 プログラム6 講義・設問 病院支援 プログラム7 講義 演習導入 本部立ち上げ・準備 プログラム8 大規模災害演習 DPAT活動 本部運営と病院支援 演習の振り返り・まとめ</p>	<p>対象: 県内DPAT登録 機関職員 修了者:42人 (9機関)</p>
<p>自殺対策支援者研修 R5年2月1日(水) 9:30～16:30 R5年2月2日(木) 9:30～16:30 ※Zoomを用いたオンライン研修(2日間)</p>	<p>内容:メンタルヘル・スファーストエイド実施者(エイダー)認定研修 共催:メンタルヘルス・ファーストエイド ジャパン 講師:岩手医科大学医学部 神経精神科学講座 教授 大塚 耕太郎 氏 九州大学大学院医学研究院 精神病態医学 准教授 加藤 隆弘 氏 島根県立心と体の相談センター 所長 小原 圭司 氏</p>	<p>対象:保健所、市町村等で相談業務を行う者 参加者:24名 (19機関)</p>

保健所精神保健担当者スキルアップ研修 (年3回) R4年5月13日(金) 14:00~16:00 R4年9月26日(月) 14:00~16:30 R5年2月24日(金) 14:00~16:00	内容 1回目:①措置入院の運用に関するガイドラインを把握する 講師:総合精神保健福祉センター 伊禮 嘉宣 ②意見交換 2回目:精神科救急医療関係者研修会(P24参照) 3回目:①ゲーム依存相談対応指導者研修の復命研修 報告者:総合精神保健福祉センター 伊禮 嘉宣 ②当センターと各保健所のアディクション関連事業の取り組みについて ③情報交換会	対象:保健所精神保健担当職員等 参加者 1回目:17名 (6機関) 2回目:P25参照 3回目:8名 (4機関)
---	---	--

## (2) 講演会・フォーラム

講演会等名 (期日・場所)	内容(テーマ、演題) 講師	対象及び 参加人員
第22回 アディクション フォーラム R5年2月4日(土) 13:00~16:00 (アイム・ユニバースてだこ 大ホール)	第1部回復に取り組む当事者とご家族の体験発表 (5名:断酒会2名(本人・家族) AA GA・NA各1名) 第2部講演:『みんなで考えよう依存症~依存症を知ってあたたかく支える』 講師:国立病院機構さいがた医療センター 院長 佐久間 寛之 氏 交流タイム・自助グループや回復施設等の紹介コーナー設置 依存症自助グループ・関係機関リストや依存症リーフレット等の配布	対象:県民、当事者・家族、自助グループ、回復施設、医療・行政・保健・福祉関係者 参加者 385人 ※感染対策のため申込制とした

## 2 普及啓発

## (1) 芸術・文化講座開催等事業(委託事業)

精神障害者が日頃から取り組んでいる創作活動や音楽活動等を広く発表する機会を設けることにより、精神障害者の活動意欲や自信を高め、生活の質の向上及び社会参加の促進、ならびに県民の精神障害者に対する理解を深めることを目的に開催する。

沖縄県作業療法士会へ委託。委託先が、運営委員会と実行委員会を設け、企画運営を行う。当センターも運営委員(所長)と実行委員(担当2名)として参加している。

令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、昨年に続き作品集を制作する。応募作品139点を作品集にまとめ、応募者と関係機関へ配布した。

## (2) 刊行物

行政資料名	定期・不定期	規格・頁数	発行部数
精神保健福祉センター所報(令和3年度)	定期	A4・44頁	ホームページ掲載
相談員のための精神保健福祉社会資源ガイド こころの支援機関リスト	不定期	A4・44頁	1,000部 ホームページ掲載

### 3 技術援助・連絡会議

#### (1) 技術指導・援助状況

地域精神保健福祉活動を推進するために、保健所、市町村、その他の関係機関、団体等に対して研修会・講演会への講師派遣、各種委員会・ケース会議への参加及び各種会議を開催し、専門的な立場から技術指導及び技術援助を行っている。

	技術指導・援助（延件数）													合計
	老人保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	ゲーム	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	その他	
保健所			12						8				11	31
市町村									25				5	30
福祉事務所			1						5					6
医療施設		4	24						3	2			164	197
介護老人保健施設														0
障害者支援施設									2					2
社会復帰施設									8					8
その他		5	37	1					40	17	58		109	267
合計	0	9	74	1	0	0	0	0	91	17	60	0	289	541
実施件数	0	9	3	1	0	0	0	0	17	3	60	0	60	153

※件数は、参加機関の件数を計上している。

※実施件数は当センターが技術指導・援助を行った件数を実数で計上している。

（集会教育などは、指導対象施設それぞれに1ずつ計上しているが、実施件数は1回として計上している。）

#### (2) 連携会議

##### ア アディクション連携会議

アディクション問題に関わる行政・保健・医療・福祉・司法等の関係機関、当事者や家族自助グループや回復施設等が一同に会し、共に学び、意見や情報を交換することで連携を深めることを目的に開催。

〔第1回〕

日時：令和4年7月6日(水) 14:00～16:00

会場：Webシステム (Zoom)

参加者：52名 (45機関)

内容：①県内依存症相談件数報告

②各参加機関あいさつ、業務紹介

③課題の協議

④情報共有



〔第2回〕

日時：令和4年12月7日(水) 14:00～16:00

会場：Webシステム (Zoom)

参加者：33名 (28機関)

内容：①報告：アディクション事業に関する参加機関の現状報告

②地域における依存症に関する情報や課題の共有、研修計画の調整を目的に  
意見交換

イ 精神科救急医療責任者等連絡会 (P.34 参照)

ウ 精神科救急医療情報センター窓口相談員連絡会 (P.34 参照)

エ ひきこもり支援地域連絡協議会 (P.37 参照)

オ DPAT (災害派遣精神医療チーム) 体制整備事業に係る会議

(ア) 運営委員会

新型コロナウイルス感染症に係る精神科領域対応のため中止

(イ) 沖縄県 DPAT 活動マニュアル検討委員会(開催なし)

(ウ) DPAT 研修企画調整会議

前記1(1)研修会のとおり、大規模災害時に備え、沖縄県 DPAT の養成を図るために毎年研修を開催している。開催にあたっては専門的な訓練を受けた DPAT 先遣隊隊員及び統括者の協力が不可欠であり、企画や内容の検討、講師調整のため、みだしの会議を開催した。

開催：年3回(10月11日、11月15日、12月6日)

参加者：12人(医師、看護師、精神保健福祉士、公認心理師、事務職等)

参加機関：琉球病院、平安病院、南部医療センター、精和病院、琉球こころのクリニック、沖縄リハビリテーションセンター病院、地域保健課、当センター等

内容：プログラム・開催方法の検討、講師・ファシリテーター役割分担等

カ 沖縄県発達障がい者支援センター・沖縄県立総合保健福祉センター連絡会議

沖縄県の発達障害児(者)支援体制の推進を図るため、沖縄県発達障がい者支援センターがじゅま〜ると当センターの恒常的な連携が確保できることを目的に実施。

日時：令和4年4月27日 15:30～17:00(Zoom)

参加者：発達障がい者支援センターがじゅま〜る職員6名、当センター職員3名、ひきこもり  
専門支援センター相談員(1名)

内容：各機関における概要・実績・事業計画紹介、情報・意見交換等

## (3) 講師等派遣

No.	日付	内容	参加者数	主催	対象	講師等派遣職員
1	R4年4月5日 (火)	ひきこもりのメカニズムと支援について	6	地域若者サポートステーション	相談員	伊禮嘉宣
2	R4年4月14日 (木)	ひきこもり支援センターの紹介とひきこもりのメカニズム	12	NPO法人はじめました。	相談業務担当職員	伊禮嘉宣
3	R4年5月9日 (月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
4	R4年5月19日 (木)	公衆衛生看護活動論	40	名桜大学	学生	伊禮嘉宣
5	R4年5月20日 (金)	相談員基礎研修	100	おきなわ女性財団	相談業務担当職員	宮川 治
6	R4年5月23日 (月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
7	R4年6月30日 (木)	周産期メンタルヘルスセミナー	100	周産期メンタルヘルス委員会	周産期関係医療機関	宮川 治
8	R4年7月13日 (水)	ひきこもりの理解と支援	30	OIST	学生、学生の家族、職員等	宮川 治 伊禮嘉宣
9	R4年8月8日 (月)	酒害教育	5	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
10	R4年8月22日 (月)	酒害教育	4	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
11	R4年8月31日 (水)	ひきこもりのメカニズムと支援について	43	石垣市子ども・若者支援地域協議会実務者会議	実務担当者	伊禮嘉宣
12	R4年9月13日 (火)	県立図書館職員研修	30	県立図書館	職員等	伊禮嘉宣 伊敷美弥 赤嶺清美
13	R4年9月29日 (木)	医療観察法ネット研修	30	琉球病院	医療福祉関係スタッフ	宮川 治
14	R4年11月1日 (火)	メンタルヘルス	10	沖縄刑務所	入所者	宮川 治
15	R4年11月7日 (月)	酒害教育	7	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
16	R4年11月21日 (月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
17	R4年11月30日 (水)	精神保健指定医研修会	400	日本精神科病院協会等	医師	宮川 治

	日 付	内 容	参加 人数	主 催	対 象	講師等 派遣職員
18	R4年12月15日 (木)	ひきこもりの基本的理解と支援について考える講座	39	名護市生活支援課	名護市民	川上健太
19	R4年12月26日 ～R5.2.28(火)	ひきこもりについて知っておきたいこと YouTube で動画配信	再生回数不明	牧志駅前ほしぞら公民館	那覇市民	国頭ゆきみ
20	R5年1月17日 (火)	ひきこもり支援 理解と対応	12	中部地域就労支援機関ネットワーク	担当職員	川上健太 伊禮嘉宣
21	R5年2月6日 (月)	酒害教育	6	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳
22	R5年2月13日 (月)	酒害教育	5	沖縄刑務所	入所者	兼浜保佳

## 4 組織育成支援

### (1) 自死遺族の「分かち合い」の会

自死遺族が安心して自らの痛みと向き合うことのできる「分かち合いの場」を提供し、参加する一人ひとりが抱えている悲しみを共有することによって癒やされ、自分のペースで回復していけることを目的に、平成19年度からファシリテーター養成を行い、平成20年度から自死遺族の「分かち合い」の会を開催している。

令和4年4月から民法の成年年齢が18歳に引き下げられたことに伴い、令和4年度から18歳以上であれば参加を認めることにした。ただし、現役の高校生については、学校が個別支援することが適当と判断し、引き続き対象者には含めない。

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、会の開催を5月から9月まで5回中止し、年7回の開催となった。参加者は実数11人(新規8人、前年度以前に参加があった方3人)、延べ15人であった。

感染対策とともに、北部、宮古、八重山など遠方から参加できること、家族の病気や障がい、育児、介護等の理由で外出が難しい方にも参加できることなどから、令和5年3月はオンライン開催を試行した。

対象者:大切な人(配偶者、親、子ども、兄弟姉妹)を自死(自殺)によって亡くされた方。

原則として、18歳以上(ただし、高校生を除く)。

場 所:当センター・ダイルーム

開催日時:毎月第3土曜日、14時～16時(13時半受付)

参加方法:当日参加(予約なし)

スタッフ:養成研修を受講したボランティアスタッフとセンター職員で行っている。

内 容:基本は小グループで分かち合い(語り合い)、状況に応じ個別面談を行う。

#### 自死遺族の「分かち合い」の会開催・参加状況

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
参加者数	2						3	2	1	3	2	2	15
スタッフ	3(1)						4(1)	4(1)	4(1)	5(1)	4(1)	4(1)	28(7)

※スタッフのうち、カッコ内は当センター職員(再掲)

### (2) 自助グループ等支援

精神保健福祉に関連する自助グループの集いやミーティング開催のために、当センター施設の一部の借用を認め、自助グループ運営を支援していた。令和3年度より、当センターの大規模改修工事及び新型コロナウイルス感染症対策、管理体制の問題等により利用停止としている。

## (V) 精神科救急医療体制

## 1 精神科救急医療情報センター相談窓口の受信状況

県は、精神科救急医療体制整備事業を行っている。その事業の中に精神科医療を必要とする者が、いつでも安心して相談や受診ができるよう、休日・夜間等の外来診療時間外において、精神科救急医療情報センターを設置。電話相談、精神科救急医療施設への受入調整等を行っている。総合精神保健福祉センターは、その事業実績をまとめており、令和4年度の結果は以下のとおりであった。

## (1) 勤務帯別受信状況と開設回数

勤務帯 (回数)	相談者	受信 件数	精神科医療施設紹介(※1)												救急 告示 病院 紹介	電話相談		その 他(※ 2)
			当番病院紹介				当番日以外の精神科 救急医療施設紹介				かかりつけ病院紹介					相 談 機 関 案 内	指 導 助 言	
			合計	入院	外来	受診 なし	合計	入院	外来	受診 なし	合計	入院	外来	受診 なし				
休日 (日勤) (126回)	本人	379	30	1	27	2	3	1	2	0	0	0	0	0	7	7	298	34
	家族	233	79	25	49	5	0	0	0	0	0	0	0	11	0	137	6	
	関係者	162	46	31	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	68	47	
	その他	29	1	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	20	7	
	合計	803	156	57	92	7	4	1	3	0	0	0	0	19	7	523	94	
前夜 (365回)	本人	1321	60	8	49	3	2	1	1	0	0	0	0	17	14	1112	116	
	家族	518	125	56	62	7	1	1	0	0	0	0	0	27	7	348	10	
	関係者	435	108	70	32	6	2	2	0	0	1	1	0	5	2	203	114	
	その他	68	10	4	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	37	15	
	合計	2342	303	138	149	16	5	4	1	0	1	1	0	55	23	1700	255	
後夜 (365回)	本人	720	11	2	8	1	0	0	0	0	0	0	0	10	3	645	51	
	家族	120	24	14	9	1	1	1	0	0	0	0	0	11	0	81	3	
	関係者	97	18	15	2	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	44	31	
	その他	20	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	11	6	
	合計	957	55	31	21	3	1	1	0	0	0	0	0	24	5	781	91	
合計 (856回)	本人	2420	101	11	84	6	5	2	3	0	0	0	0	34	24	2055	201	
	家族	871	228	95	120	13	2	2	0	0	0	0	0	49	7	566	19	
	関係者	694	172	116	49	7	2	2	0	0	1	1	0	8	4	315	192	
	その他	117	13	4	9	0	1	0	1	0	0	0	0	7	0	68	28	
	総計	4102	514	226	262	26	10	6	4	0	1	1	0	98	35	3004	440	

※1 精神科救急医療施設とは輪番病院である18施設のこと。

※2 その他とは病院間の連絡、精神科救急医療情報センターのシステムの説明、精神科以外の相談・問い合わせ等

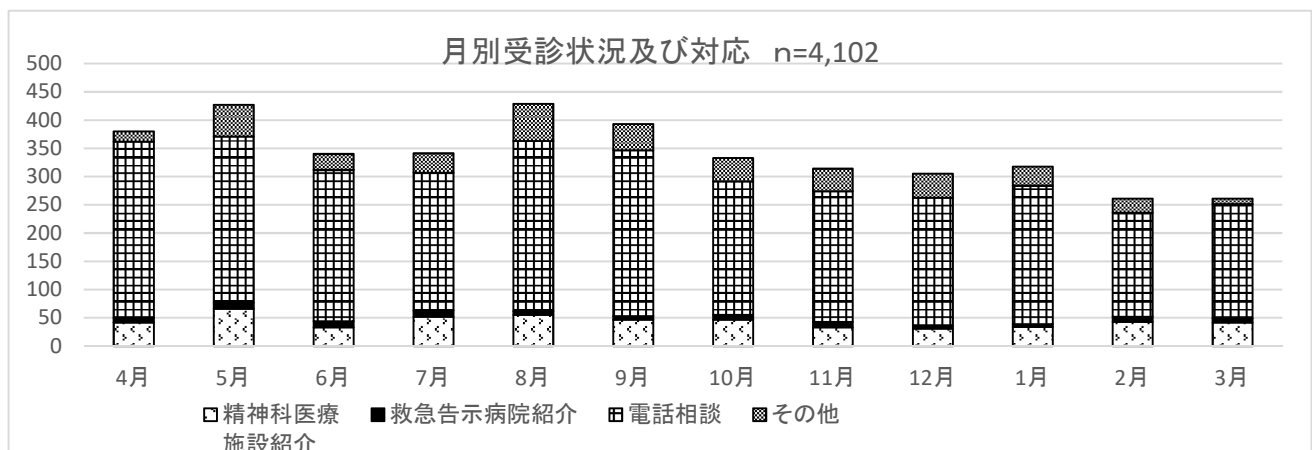
## (2) 月別受信状況及び対応

月別受信状況と対応は、次の表及びグラフのとおりで月平均受信件数は341.8件であり、対応は電話相談が多い。

月 日(回数)	総 受 信 件 数	精神科医療施設紹介(※1)												救 急 告 示 病 院 紹 介	電話相談		そ の 他 (※2)
		当番病院紹介				当番日以外の精神科 救急医療施設紹介				かかりつけ病院紹介					相 談 機 関 案 内	指 導 助 言	
		合 計	入 院	外 来	受 診 な し	合 計	入 院	外 来	受 診 な し	合 計	入 院	外 来	受 診 な し				
R4年 4月 30日(70回)	380	42	20	18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1	311	18
5月 31日(74回)	427	66	27	35	4	0	0	0	0	0	0	0	0	11	3	291	56
6月 30日(68回)	340	31	15	13	3	2	1	1	0	0	0	0	0	11	3	265	28
7月 31日(73回)	341	50	23	25	2	1	0	1	0	1	1	0	0	11	4	240	34
8月 31日(71回)	429	54	22	30	2	1	0	1	0	0	0	0	0	7	1	300	66
9月 30日(70回)	393	47	14	29	4	0	0	0	0	0	0	0	0	6	2	292	46
10月 31日(73回)	333	47	20	25	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	4	233	41
11月 30日(70回)	314	30	14	16	0	3	3	0	0	0	0	0	0	10	4	227	40
12月 31日(75回)	305	28	11	17	0	3	2	1	0	0	0	0	0	5	5	222	42
R5年 1月 31日(76回)	318	34	21	12	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	4	241	34
2月 28日(65回)	261	43	22	20	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	2	182	25
3月 31日(71回)	261	42	17	22	3	0	0	0	0	0	0	0	0	7	2	200	10
合計 365日(856回)	4,102	514	226	262	26	10	6	4	0	1	1	0	0	98	35	3,004	440

※1 精神科救急医療施設とは輪番病院である18施設のこと。

※2 その他とは病院間の連絡、システム説明、精神科以外の相談・問い合わせ等のこと。



## 2 精神科救急医療連絡会

### (1) 精神科救急医療責任者等連絡会

精神科救急医療情報センターの体制整備及び円滑な運営を図ることを目的として開催する。

月 日	内 容	参加数・構成員
第 1 回 R4年 6月 13日(月) 14:00～16:00 沖縄県医師会館	1) 救急隊の精神科搬送の運用の確認及び 意志統一をお願いしたい 2) 精神科救急の受け入れが困難な場合、事 前に圏域内病院に相談して頂きたい 3) 23 条通報による措置入院の運用の確認 4) 精神科救急と措置入院について 5) 離島における指定医の確立 6) 輪番病院に入っていない病院について 7) 緊急告示からのリエゾン体制の確立	<参加人数> 第 1 回: 53 名 (39 機関) 第 2 回: 45 名 (36 機関) <構成機関> 1 沖縄県医師会 2 精神科病院協会 3 外来精神科医会 4 精神保健福祉協会 5 防災危機管理課 6 警察本部 7 救急告示病院 8 精神保健福祉士協会 9 日本精神科看護協会 沖縄支部 10 琉球大学病院 11 精和病院 12 琉球病院 13 南部医療センター 14 保健所 15 県地域保健課 16 精神科救急窓口相 談員 17 当センター 18 その他所長が必要 と認めた者(各MC協 議会等)
第 2 回 R4年 12月 12日 (月) 14:00～16:00 沖縄県医師会館	1) 自傷行為のあるケースの対応について 2) 精神科救急の受け入れ条件について 3) 精神科救急リエゾンの設置の進捗状況	

### (2) 精神科救急医療情報センター窓口相談員連絡会

精神科救急医療情報センターの円滑な運営のため、相談員の資質向上を図ることを目的として開催する。

日 時	内 容	対象 (参加人数)
第 1 回 R4年 8月 17日(水) 14:00～16:00 総合精神保健福祉 センター	事例検討 4 事例 意見交換 2 事例	参加者 13 名 (相談員 7 名)
第 2 回 R5年 2月 15日(水) 14:00～16:00 総合精神保健福祉 センター	事例検討 3 事例 意見交換 1 事例	参加者 13 名 (相談員 7 名)

**(VI) ひきこもり専門支援センター事業****1 ひきこもり専門支援センター概要**

ひきこもり※状態にある本人及び家族等を支援するとともに、関係機関と連携することにより、ひきこもり状態にある本人の自立を促進し、本人及び家族の福祉の増進を図るため、H28年4月に開所し、同年10月より相談業務を開始した。

※ひきこもりの定義…様々な要因の結果として社会参加(義務教育を含む就学、非常勤職を含む就労、家庭外での交遊など)を回避し、原則的には6カ月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態(他者と交わらない形での外出をしてもよい)を指す現象概念である。なお、ひきこもりは原則として統合失調症の陽性あるいは陰性症状に基づくひきこもり状態とは一線を画した非精神病性の現象とするが、実際には確定診断がなされる前の統合失調症が含まれている可能性は少なくないことに留意すべきである。(2010年 ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン)

**2 業務内容****(1) ひきこもりに関する相談支援****ア 相談支援体制**

ひきこもり専門支援センターでは、ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師等の有資格者)を4名配置(1名は市町村支援)し、ひきこもりに関する相談支援を行っている。相談方法は、主に電話相談、来所相談、訪問など適宜必要な支援を実施している。

電話相談は、月曜日～金曜日(祝日、年末年始、慰霊の日を除く)の10時～12時、13時～16時受付、来所相談は予約制となっている。

**イ 相談件数(延べ数)**

相談延べ件数は、電話相談1,614件、来所相談415件、メール・文書の送付(手紙を送る等)236件、訪問支援121件、延べ総数は2,386件であった。前年度の相談延べ件数(1,897)と比較し増加している。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、定期面談を一時中断したり、相談を控えたりしたケースもあった。訪問支援は、家庭訪問や同行支援(本人と関係機関の見学、病院受診等)であった。

**令和4年度相談対応件数**

支援方法	相談者内訳				延総数	令和3年度
	本人	家族	関係機関	その他 (親族・知人等)		
電話	238	1,035	301	40	1,614	1,312
来所	111	301	2	1	415	361
訪問	54	65	2	0	121	62
メール・手紙等	134	101	1	0	236	162
延総数	537	1,502	306	41	2,386	1,897

**ウ ひきこもり相談対象者の概要**

相談実人員数は331人。そのうち男性は242人(73.1%)、女性は85人(25.7%)で対象者は男性が多かった。年代別では、20代92人(27.8%)、30代83人(25.1%)、40代67人(20.2%)と、



対象者は20～40代の割合が多くなっていた。いわゆる「8050問題」に該当する可能性の高い、50代以上の相談は34人(10.3%)であった。

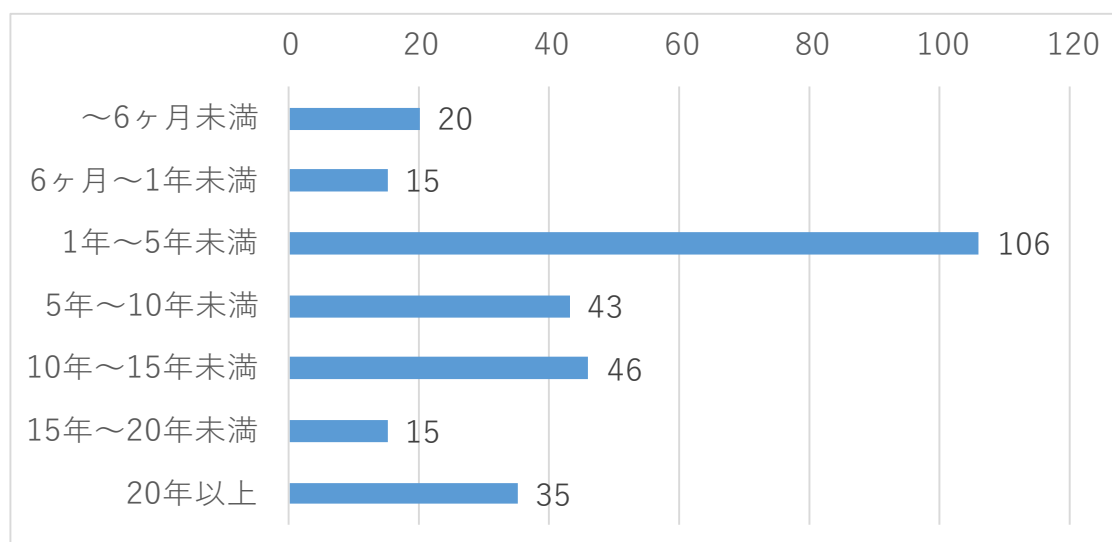
#### 相談実人員

	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	不明	総数
男性	0	31	64	62	50	24	9	2	242
女性	0	16	28	21	16	1	0	3	85
不明	0	3	0	0	1	0	0	0	4
総数	0	50	92	83	67	25	9	5	331

#### エ 相談対象者のひきこもり年数

相談対象者 331人中、ひきこもり状態である年数が把握できたケースは280人であった。それ以外の51人は、ひきこもり年数不明あるいは、ひきこもりではない相談(病気について・家族の悩み等)であった。1～5年未満が106人(37.9%)と最も多く、次いで10年～15年未満が46人(16.4%)。10年以上にわたる長期のひきこもり者は96人で、全体の34.3%に上っている。

ひきこもり年数(N=280)



#### オ 処遇

令和4年度中に支援終了したケースは190人。支援終了の内訳は、助言終了120人、関係機関にて支援34人、就労等のため支援終了16人、中断20人であった。次年度へ支援を継続するケースは141人である。

#### 支援終了者の内訳

内訳	ケース実数	計
助言終了	120	190
関係機関にて支援	34	
就労等	16	
中断	20	

#### (2) 受理会議

目的:継続支援の可否や支援方針の決定

日時:毎週水曜日(8:45～10:00)、その他適宜

出席者:ひきこもり相談支援専門員(保健師、看護師)、所長(医師)、相談指導班長(保健師)、ひきこもり支援担当職員(保健師、心理士)、

## (3) ひきこもり支援機関事例検討会

事例を通し、関係機関職員の相談技術の向上を図るとともに、適切な支援方法について検討し、関係機関との連携を強化する。

開催日	参加機関	参加人数	事例数
5月23日(月) ※Zoomにて開催	石垣市福祉総務課等	4機関9名	1
9月8日(木) ※Zoomにて開催	宮古保健所	1機関2名	3
9月29日(木) ※Zoomにて開催	宮古保健所、市町村担当課、社会福祉協議会、相談支援事業所2機関、	5機関7名	1
11月16日(水)	今帰仁村担当課、教育委員会	2機関9名	1
R5年2月27日(月)	北谷町福祉課、中部福祉事務所、北谷町社会福祉協議会、パーソナルサポートセンター、	4機関8名	1
R5年3月2日(木) ※Zoomにて開催	石垣市青少年センター	1機関3名	1
延べ数		17機関38名	8事例

## (4) ひきこもり支援地域連絡協議会

ひきこもりの状態にある本人及び家族を孤立させることなく、住み慣れた地域の既存の社会資源(医療、保健、福祉、教育、就労等の関係機関)が連携し、適切な支援ができるよう、連絡協議会を設置する。

地区	日程	会場	内容	参加機関	参加人数
北部	7月27日 (水)	名護中央公民館	講話「ひきこもりのメカニズムと精神疾患」 講師：当センター所長 宮川 治	市町村担当課、教育委員会、保健所、福祉事務所、社会福祉協議会、民生員児童委員協議会、地域若者サポートステーション、	14機関 29名
中部	11月30日 (水)	うるま市健康福祉センターうるみん	講話「ひきこもり者の福祉サービス利用」 講師：アソシアホイスコーレ 安里 強兵 氏 協議(意見・情報交換)	市町村担当課、教育委員会、パーソナルサポートセンター、地域若者サポートステーション、	21機関 41名

南部	R5年 2月22日 (水)	当センター	講話「精神疾患にも対応した地域包括ケアシステムとひきこもり支援」 講師：当センター所長 宮川 治 協議 1. 市町村のひきこもり相談体制や庁内連携について 2. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて	市町村担当課、保健所、福祉事務所、相談支援事業所、社会福祉協議会、包括支援センター、パーソナルサポートセンター、地域若者サポートステーション、医療機関、民間団体	17機関 49名
宮古	12月23日 (金)	宮古合同庁舎	事例検討：「40代女性、母と同居しているひきこもり事例について」 協議（意見・情報交換）	市町村担当課、保健所、福祉事務所、社会福祉協議会、民生委員協議会、民生委員児童委員協議会	8機関 17名
八重山	R5年 1月6日 (金)	八重山合同庁舎	事例検討「ひきこもり・アディクションどちらの視点で見るか」 協議 1. 市町村のひきこもり相談体制や庁内連携について 2. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムについて	市町村担当課、青少年センター、保健所、福祉事務所、地域若者サポートステーション、地域活動支援センター、医療機関	10機関 26名
那覇市	6月27日 (月)	総合福祉センター	講話「ひきこもりのメカニズムと支援者としての心構え」 講師：当センター所長 宮川 治 協議（意見・情報交換）	那覇市役所関係課	20機関 36名

## (5) ひきこもり支援者研修会（再掲）

目的：各機関の相談員や支援者が、ひきこもりやその家族支援について学び、スキルを学習することにより、相談に対する不安を取り除き、持続的な家族支援やひきこもり支援ができることを目的とする。

対象者：ひきこもりの支援に従事する関係機関

開催日	内容	参加者
R4年12月8日(木) 9:30~11:45	講話：「ひきこもりと対話的支援」 講師：筑波大学教授 精神科医 斉藤 環 氏	43機関 70名

## (6) ひきこもり家族教室(再掲)

目的：家族がひきこもりの知識と当事者への対応を学び、家族同士の情報交換や交流を図ることで、家族が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもり専門支援センターで支援している家族

場所：当センター 2階教育研修室

開催日	内 容	参加者
第1回 R4年 5月11日(水)	講話：「ひきこもりのメカニズムと対処法」 講師：当センター所長 医師 宮川 治	17世帯 22名
第2回 R4年 10月7日(金)	講話：「ひきこもりの理解のために」 講師：当センター心理士 川上 健太	18世帯 23名
第3回 R4年 12月21日(水)	① 講話：「ひきこもり支援のステップアップ及びショートケア紹介」 講師：当センター心理士 川上 健太 ② 講話：「地域若者サポートステーションの紹介」 講師：地域若者ステーション琉球八重山 統括責任者 吉長 顕 氏 ③ 講話：「就職・生活支援パーソナルサポートセンターの紹介」 講師：沖縄県就職・生活支援パーソナルサポートセンター 統括責任者 名嘉 泰 氏 ④ 講話：「福祉サービス事業及びB型事業所 Kupono の紹介」 講師：就労継続支援B型事業所 Kupono 作業療法士 坂本 緑 氏 ⑤ 講話：「ひきピアルーム及び侍学園の紹介」 講師：坂本 緑 氏 侍学園校長 坂本 将史 氏 ⑥ 質疑応答	20世帯 22名
第4回 R5年 2月8日(水)	① 講話：「ひきこもりの親の体験談」 講師：北部不登校・ひきこもりを考える会 親川 久巳 氏 ② 講話：「ひきこもり経験者の体験談」 講師：アソシア ホイスコーレ 山城 愛永 氏 ③ 質疑応答・意見交換機	25世帯 30名

## (7) ひきこもり家族向け講演会(再掲)

目的：家族がひきこもりの知識を得ることや当事者への対応方法を学ぶことを通して、家族自身が安心して健康的な生活を送れるようになることを目的とする。

対象者：ひきこもり専門支援センターを利用している家族、県内の家族会会員、当事者(当センターを利用している方を中心に募集)

場所：沖縄県総合福祉センター 1階ゆいぽーる

開催日	内 容	参加者
R4年 6月4日(土)	講話：「ひきこもり家族の資金計画」 講師：『働けない子どものお金を考える会』 メンバー ファイナンシャルプランナー 村井 英一 氏	総計 68 名 (内訳) 家 族 55 名 支援者 13 名

## (8) 普及啓発

各種会議等において、ひきこもりやひきこもり専門支援センターに関するリーフレット等を配布した。

## (9) 講師等派遣(再掲)

日 付	内 容	参加者数	主 催	対 象	派遣職員
R4年 4月5日(火)	「ひきこもりのメカニズムと支援について」	6人	地域若者サポートステーション沖縄	相談員	当センター 保健師
R4年 4月13日 (水)	「ひきこもり専門支援センターの紹介とひきこもりのメカニズム」	12人	NPO 法人 はじめました。	職員	当センター 保健師
R4年 7月13日 (水)	「ひきこもりの理解と支援」	30人	沖縄科学技術大学院大学	学生・学生の家族、職員	当センター 所長 保健師
R4年 8月31日 (水)	「ひきこもりのメカニズムと支援について」	43人	石垣市子ども・若者支援地域連絡協議会	協議会実務者	当センター 所長 保健師
R4年 12月15日 (木)	「ひきこもりの基本的理解と支援について考える講座」	39人	名護市生活支援課	名護市民	当センター 心理士
R5年 1月17日 (火)	「ひきこもり支援 理解と対応」	12人	中部地域就労支援機関ネットワーク会	中部地区就労支援機関職員	当センター 保健師 心理士
R5年 3月6日 (月)	「ひきこもり支援 理解と対応」	20人	沖縄県おしごと応援センター	職員	当センター 保健師 心理士
R4年 12月26日～ R5年 2月28日	「『ひきこもり』について知っておきたいこと」 ※YouTubeにて、動画を限定公開	再生回数 不明	牧志駅前ほしぞら公民館	那覇市内に勤務・在住する者で、「ひきこもり」に関心のある方	当センター 心理士

## (VII) 職員研修

## 1 職員研修

(1) 学会・研究会・研修会参加

令和4年度研修派遣状況(費用弁償による派遣も含む)

月 日	研 修 名	場 所	主 催
R4年 5月17日(火) 5月20日(金)	第43回 班長級第一部研修	沖縄県自治研修所	沖縄県自治研修所
R4年 6月4日(土)	令和4年度DPAT先遣隊隊員 技能維持研修	日本精神科病院協 会会館	公社)日本精神科病 院協会DPAT事務局
R4年7月5日～ R5年2月14日 計6回	安心感をテーマに子供の愛着や 支援のあり方を学び合うコミュニ ティ	オンライン研修	OKINAWA若者みらい デザインプロジェクト
R4年 7月19日(火)～ 7月20日(水)	R4年度薬物依存症治療指導者 ・治療相談対応指導者研修	オンライン研修	久里浜医療センター
R4年 7月28日(木)～ 7月29日(金)	ひきこもり相談初任者研修	オンライン研修	厚生労働省
R4年 8月18日(木)	はじめて学ぶ統計・統計担当者 向け入門	オンライン研修	総務省統計研究研修所
R4年 9月21日(水)～ 9月22日(木)	思春期精神保健研修事業 ひきこもり対策研修	オンライン研修	国立国際医療研究セ ンター 国府台病院
R4年 10月24日(月)～ 10月25日(火)	ひきこもり対策厚生労働省フオー ーアップ研修	オンライン研修	厚生労働省
R4年 10月28日(金)	ひきこもり相談支援実践研修会 応用編	オンライン研修	一財)日本公衆衛生 協会
R4年 11月16日(水)～ 11月17日(木)	思春期精神保健対策医療従事 者専門研修	オンライン研修	国立国際医療研究セ ンター国府台病院
R4年 11月25日(金)	PTSD 対策専門研修	オンライン研修	国立精神・神経医療 研究センター
R4年 12月15日(木)～ 12月16日(金)	令和4年度ゲーム依存相談対応 指導者養成研修	オンライン研修	久里浜医療センター
R4年 12月19日(月)～ 12月21日(水)	第53回 主査級第一部研修	沖縄県自治研修所	沖縄県自治研修所

R5年 1月6日(金) 1月13日(金)	令和4年度第2回メンタルヘルス・ファーストエイド ジャパン(MHFA-J)実施者(エイダー)認定研修会	オンライン研修	メンタルヘルス・ファーストエイドジャパン
R5年 1月7日(土)～ 1月9日(月)	第15回動機付け面接(MI)集中講座	ウイנק愛知(愛知県産業労働センター)	ゆるーい思春期ネットワーク
R5年 1月19日(木)～ 1月20日(金)	令和4年度こころの健康づくり対策事業「PTSD 対策専門研修」専門コース	オンライン研修	国立精神・神経医療研究センター
R5年 1月19日(木)～ 1月20日(金)	令和4年度アルコール依存症研修プログラム(依存症治療指導者養成研修/相談対応指導者養成研修)	オンライン研修	久里浜医療センター
R5年 1月25日(水)～ 1月26日(木)	令和4年度ひきこもり対策研修	オンライン研修	国立国際医療研究センター国府台病院
R5年 1月26日(木)～ 1月27日(金)	令和4年度ギャンブル等依存症研修(治療指導者養成研修/相談対応指導者養成研修)	オンライン研修	久里浜医療センター
R5年 3月6日(月)	生きることの包括支援のための研修会	オンライン研修	いのち支える自殺対策推進センター

# 資 料

- 1 沖縄県精神科救急医療体制概要
- 2 沖縄県精神科救急医療体制図
- 3 沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談フローチャート
- 4 救急隊による精神科救急患者搬送のフローチャート



## 1 沖縄県精神科救急医療体制概要

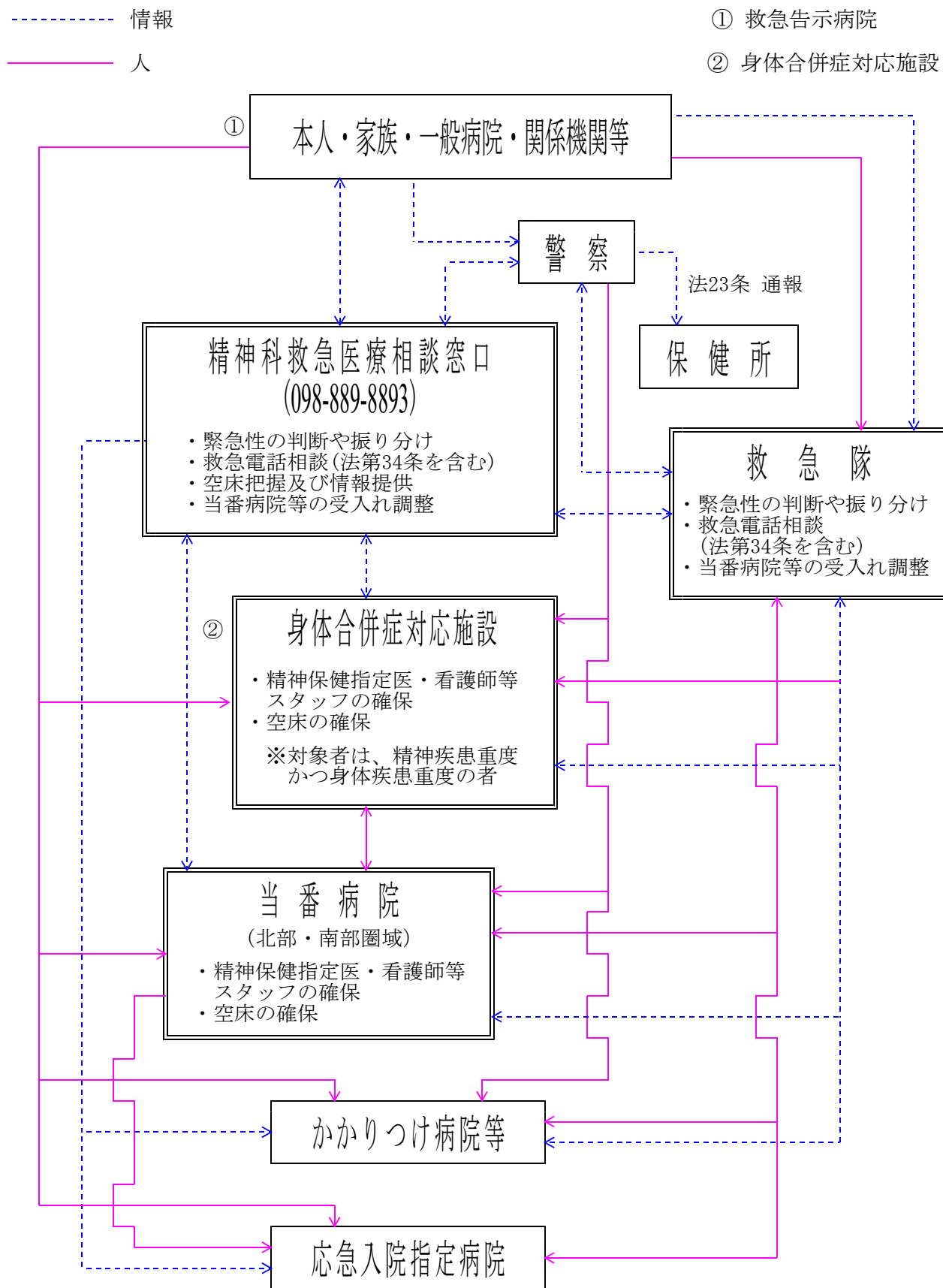
### 1 目的

精神科医療を必要とする者が、いつでも安心して相談や受診ができるよう、休日・夜間等の外来診療時間外において、精神障害者等の適切な医療及び保護を確保し、精神保健福祉の充実に資することを目的とする。

### 2 内容

項目	内 容
対象者	1 自らの意思により、相談・診療を求める者 2 精神症状により、緊急に精神科受診を必要とする者 3 自らの意思によらない医療・保護を必要とする者
非対象者	アルコール酩酊者、身体合併症優先者等
実施時間	休 日 : 9時から翌日9時まで(24時間) 平日夜間 : 17時から翌日9時まで
精神科救急医療 相談窓口	電話による相談受付 休 日 : 9時から翌日9時まで(24時間) 平日夜間 : 17時から翌日9時まで ----- 連絡先 098-889-8893
当番病院	北圏域、南圏域ごとに1当番病院(精神科救急医療施設) 宮古、八重山圏域については現行県立病院の診療体制で対応
当番病院の 診療体制等	精神保健指定医(オンコール可)1名、看護師1名、 1床の空床確保等診療応需体制を整備する。
かかりつけ病院	かかりつけ病院がある救急患者への対応は、かかりつけ病院で 対応することを基本とする。
応急入院指定 病院(21カ所)	北圏域: 国立病院機構琉球病院 他 南圏域: 県立精和病院 他 宮古圏域: 県立宮古病院 八重山圏域: 県立八重山病院
合併症受入 協力病院	当番病院等では対応困難な身体合併症患者を受け入れる病院で 対応することを基本とする。
精神科救急 医療体制連絡 調整委員会	システムの適切な運営を図るため医師会、精神病院協会、警察、 消防、精神科医療の学識経験者、行政等の代表者からなる委員 会を設置する。
搬 送	原則として 1 診察や入院を依頼した者が搬送を行う。 2 転院患者については、転院依頼した者が搬送を行う。

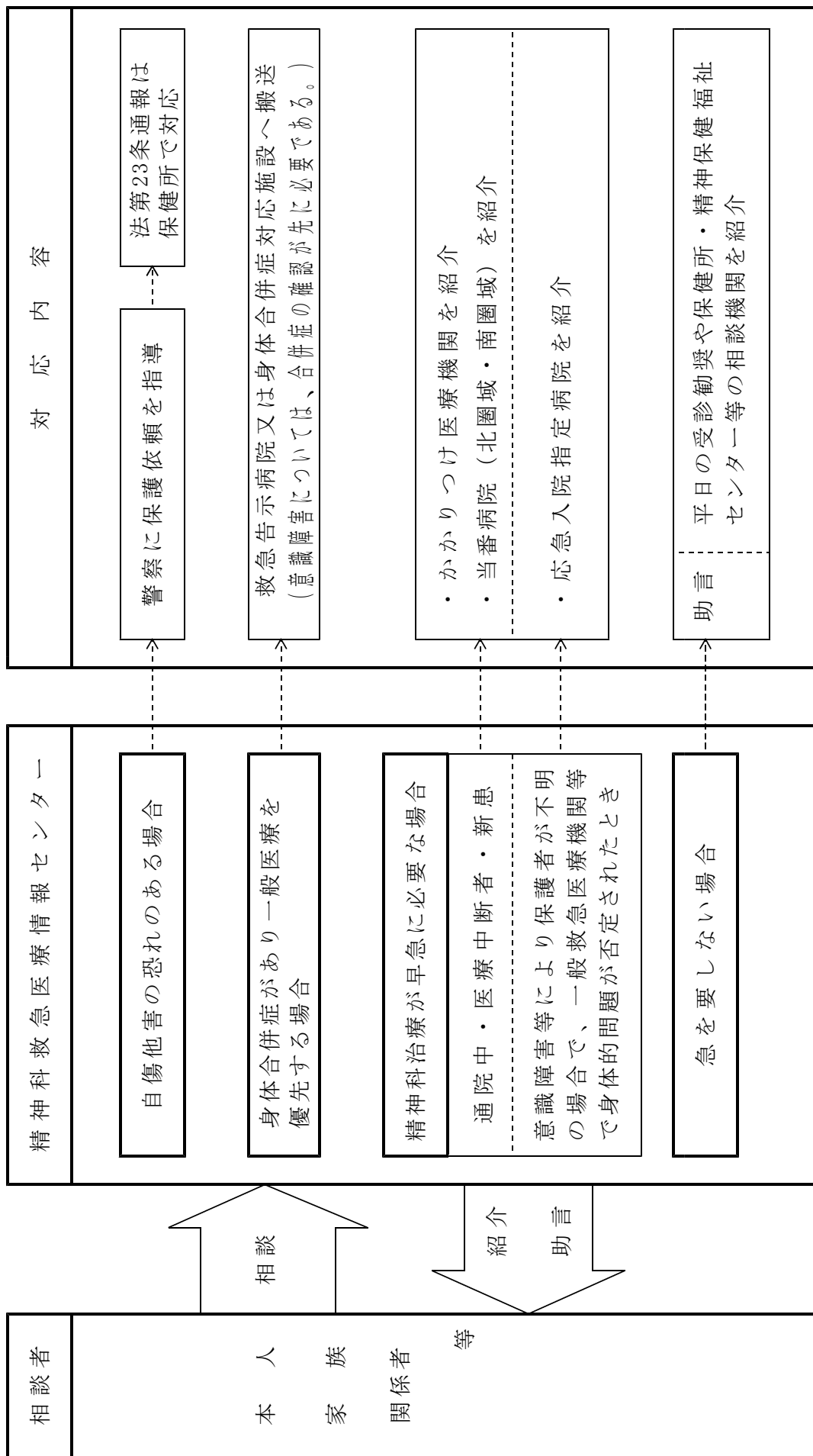
## 2 沖縄県精神科救急医療体制図



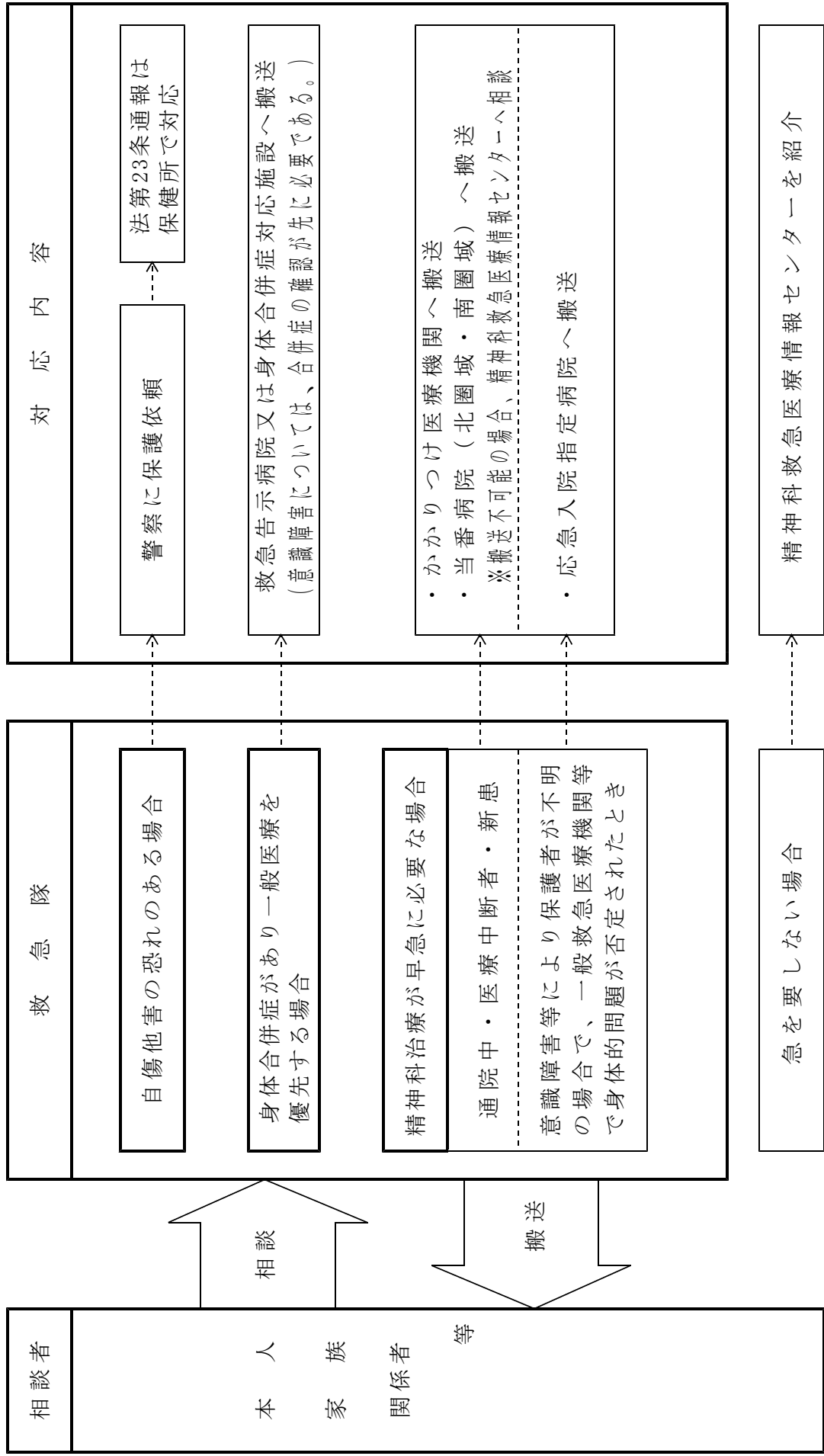
※ かかりつけ病院のある救急患者については、相談窓口を介さず、直接かかりつけ病院を受診することを基本とする。

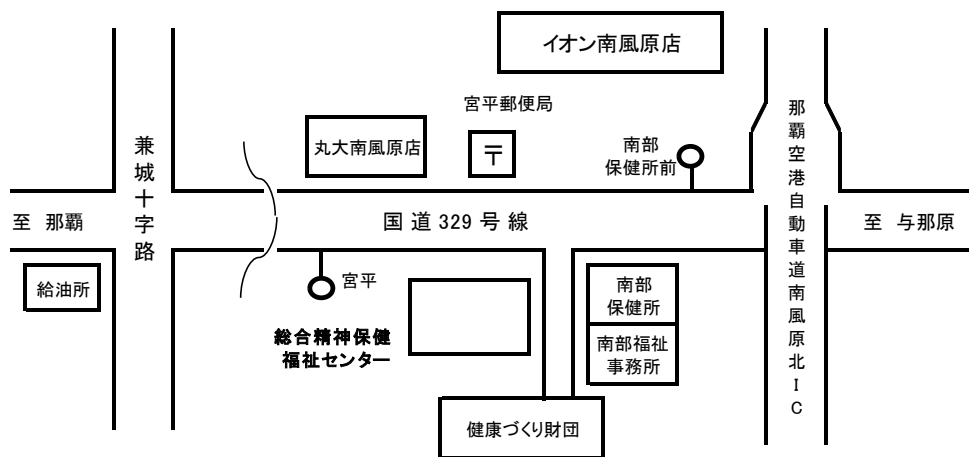
※ かかりつけ病院が受け入れられない搬送については、相談窓口を介さず、直接当番病院へ連絡調整の上、搬送することを基本とする。

### 3 沖縄県精神科救急医療情報センター電話相談窓口の流れ <フローチャート>



#### 4 救急隊による精神科救急患者搬送の流れ <フローチャート>





**【交通案内】**

**〈バス〉**

- 39 南城線(沖縄バス)
- 339 南城結の街線(〃)
- 30 泡瀬東線(東陽バス)
- 37 那覇新開線(〃)
- 38 志喜屋線(〃)
- 191 城間線(〃)
- 338 斎場御嶽線(〃)
- 391 城間線(〃)

---

発行：沖縄県立総合精神保健福祉センター

〒901-1104

沖縄県南風原町字宮平212-3

TEL (098)888-1443

FAX (098)888-1710

---